

②

国際自然環境アウトドア専門学校 シラバス

| 科目名 | 英会話 | 授業形態 | 対面・遠隔併用 | 授業の方法 | 演習 |
|--|--|------|---|-------|------|
| 担当教員 | 外部講師 | | 実務授業の有無 | ○ | |
| 対象学科 | 野外教育・アウトドアスポーツ/ 自然ガイド・環境保全/アウトドア アプロインストラクター | 対象学年 | 2 | 開講時期 | 通年 |
| 必修・選択 | 必修 | 単位数 | | 時間数 | 32時間 |
| 授業概要、目的、 授業の進め方 | 海外でコミュニケーションをとるのに必要な英語を学び、最低限の会話力を身につける。また、国際感覚を身に付けるために海外の文化・習慣についても学ぶ。 | | | | |
| 学習目標 (到達目標) | <ul style="list-style-type: none"> ・ガイディングに必要な語彙力と英会話力を身につける。 ・英会話実習に向けたショップ・飲食店・宿泊施設等で使える英会話を身につける。 | | | | |
| テキスト・教材・参考 図書・その他資料 | 特になし | | | | |
| 回数 | 授業項目、内容 | | 学習方法・準備学習・備考 | | |
| 1 | 語彙力（自然） | | 会話と板書による学習 | | |
| 2 | 語彙力（道具） | | 会話と板書による学習 | | |
| 3 | 語彙力（天気・地形・病気やケガ・体） | | 会話と板書による学習 | | |
| 4 | ガイディングに必要な英会話（グリーンシーズン） | | 会話と板書による学習 | | |
| 5 | ガイディングに必要な英会話（スノーシーズン） | | 会話と板書による学習 | | |
| 6 | ガイディングに必要な英会話（ガイディングの一連の流れ） （挨拶・自己紹介・行程・危険箇所・体調・装備・体操・順番・休憩・水分補給など） | | | | |
| 7 | 5分間の英語発表（ガイディングに関する内容） | | 発表者は事前に準備しておくこと | | |
| 8 | 5分間の英語発表（ガイディングに関する内容） | | 発表者は事前に準備しておくこと | | |
| 9 | アウトドアショップで必要な英会話（接客・商品説明・電話応対・会計・数字やお金の数え方） | | 会話と板書による学習 | | |
| 10 | アウトドアショップで必要な英会話（接客・商品説明・電話応対・会計・数字やお金の数え方） | | 会話と板書による学習 | | |
| 11 | 飲食店で必要な英会話（接客・誘導→注文→配膳・予約・会計） | | 会話と板書による学習 | | |
| 12 | 飲食店で必要な英会話（接客・誘導→注文→配膳・予約・会計） | | 会話と板書による学習 | | |
| 13 | 宿泊施設で必要な英会話（受付・誘導・案内） | | 会話と板書による学習 | | |
| 14 | 宿泊施設で必要な英会話（受付・誘導・案内） | | 会話と板書による学習 | | |
| 15 | 5分間の英語発表（ショップ・飲食店・宿泊施設に関する内容） | | 発表者は事前に準備しておくこと | | |
| 16 | 5分間の英語発表（ショップ・飲食店・宿泊施設に関する内容） | | 発表者は事前に準備しておくこと | | |
| 評価方法・成績評価基準 | | | 履修上の注意 | | |
| 出席率と授業態度及び英語発表により評価を行う。 出席率80%未満の場合、原則として成績評価は行わない。 成績評価基準は、優(80点以上)・良(70点以上)・可(60点以上)・不可(59点以下)とする。 | | | 増加するインバウンドに対して英語でガイドできる人材が求められています。授業内外で積極的に会話することで語学力を高めてください。 | | |
| 実務経験教員の経歴 | 日本での英語教師歴10年以上 | | | | |

②

国際自然環境アウトドア専門学校 シラバス

| 科目名 | 社会人常識マナー検定対策 | 授業形態 | 対面のみ | 授業の方法 | 講義 |
|---|---|------|---------------|-------|----|
| 担当教員 | 福山泰子 | | 実務授業の有無 | ○ | |
| 対象学科 | 山岳プロ/野外教育・アウトドアスポーツ/自然ガイド・環境保全/クライミングインストラクター/アウトドアプロインストラクター | 対象学年 | 3/2 | 開講時期 | 前期 |
| 必修・選択 | 必修 | 単位数 | | 時間数 | 16 |
| 授業概要、目的、授業の進め方 | 社会人としての必要な知識やマナーの習得を目指す | | | | |
| 学習目標 (到達目標) | 社会人常識マナー検定3級合格 | | | | |
| テキスト・教材・参考図書・その他資料 | 社会人常識マナー検定3級テキスト/問題集 | | | | |
| 回数 | 授業項目、内容 | | 学習方法・準備学習・備考 | | |
| 1 | 【1日目】社会常識（社会と組織、仕事と成果、一般常識） | | 筆記用具、テキスト、問題集 | | |
| 2 | 【1日目】コミュニケーション （ビジネスコミュニケーション、言葉遣い、ビジネス文書） | | 筆記用具、テキスト、問題集 | | |
| 3 | 【2日目】ビジネスマナー （職場のマナー、来客対応、交際業務、） | | 筆記用具、テキスト、問題集 | | |
| 4 | 【2日目】ビジネスマナー、検定対策 （文書等の受け取り発送、会議等） | | 筆記用具、テキスト、問題集 | | |
| 5 | | | | | |
| 6 | | | | | |
| 7 | | | | | |
| 8 | | | | | |
| 9 | | | | | |
| 10 | | | | | |
| 11 | | | | | |
| 12 | | | | | |
| 評価方法・成績評価基準 | | | 履修上の注意 | | |
| 出席率と授業態度により評価を行う。 出席率80%未満の場合、原則として成績評価は行わない。 学習意欲40%、成果40%、出席20% 成績評価基準は、優(80点以上)・良(70点以上)・可(60点以上)・不可(59点以下)とする。 | | | | | |
| 実務経験教員の経歴 | 講師は各事業にて実務経験あり。講演、講義経験あり。 | | | | |

②

国際自然環境アウトドア専門学校 シラバス

| 科目名 | 就職実務 | 授業形態 | 対面・遠隔併用 | 授業の方法 | 講義 |
|--|--|------|--------------------------|-------|------|
| 担当教員 | 小野彰太 | | 実務授業の有無 | × | |
| 対象学科 | 野外教育・アウトドアスポーツ/ 自然ガイド・環境保全/山岳プロ/ アウトドアプロインストラクター 学科 | 対象学年 | 1 | 開講時期 | 後期 |
| 必修・選択 | 必修 | 単位数 | | 時間数 | 16時間 |
| 授業概要、目的、 授業の進め方 | 自己PR、履歴書の作成や模擬面接等、就職活動に必要な一連のプロセス、必要書類について学ぶ。 | | | | |
| 学習目標 (到達目標) | 就職活動のプロセスを理解し、主体的に就職活動を進めることができる。 | | | | |
| テキスト・教材・参考 図書・その他資料 | ◆ライフデザインナビ2「ビジネス適性診断」Web ◆その他資料（ワークシート）を適宜配布 | | | | |
| 回数 | 授業項目、内容 | | 学習方法・準備学習・備考 | | |
| 1 | 就職活動の動機づけ（ビジネス適正診断、進路希望調査） | | ■ビジネス適正診断の実施 ■進路希望調査票に記入 | | |
| 2 | 就職活動の準備とスタート | | ■ワークシート記入 | | |
| 3 | 自分と職業を理解する（自己PR）① | | ■ワークシート記入 | | |
| 4 | 自分と職業を理解する（自己PR）② | | ■ワークシート記入 | | |
| 5 | 面接試験対策（自己PR、一般教養、学校生活）① | | ■ワークシート記入 | | |
| 6 | 面接試験対策（自己PR、一般教養、学校生活）② | | | | |
| 7 | 自分と職業を理解する・面接試験対策（志望動機） | | ■ワークシート記入 | | |
| 8 | 情報収集・企業研究 | | ■ワークシート記入 | | |
| 評価方法・成績評価基準 | | | 履修上の注意 | | |
| 出席率、授業姿勢、ワークシートの完成度等、総合的に評価を行います。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。 | | | ■毎回ノートPCを持参してください。 | | |
| 実務経験教員の経歴 | | | | | |

②

国際自然環境アウトドア専門学校 シラバス

| 科目名 | P C 演習 I | | 授業形態 | 対面のみ | 授業の方法 | 演習 |
|---|--|------|---------|--------------------|-------|----|
| 担当教員 | 伊藤由美子 | | 実務授業の有無 | ○ | | |
| 対象学科 | 山岳プロ/野外教育・アウトドアスポーツ/自然ガイド・環境保全/アウトドアプロインストラクター | 対象学年 | 1 | 開講時期 | 後期 | |
| 必修・選択 | 必修 | 単位数 | | 時間数 | 32時間 | |
| 授業概要、目的、授業の進め方 | Microsoft Wordを用いて簡単なビジネス文書作成ができる。同時にパソコン、ワープロ、ビジネス文書に関する基礎的な技能を習得する | | | | | |
| 学習目標 (到達目標) | サーティファイWORD文書処理技能認定試験3級 合格 | | | | | |
| テキスト・教材・参考図書・その他資料 | wordクイックマスター、WORD文書処理技能認定試験3級問題集 | | | | | |
| 回数 | 授業項目、内容 | | | 学習方法・準備学習・備考 | | |
| 1 | 【1日目】Word基本操作 (文字入力、編集、文書の編集、印刷、作成等) | | | パソコン、筆記用具、テキスト、問題集 | | |
| 2 | 【2日目】Word基本操作 (文字の作成、表を使った文書、図形や画像を使った文書等) | | | パソコン、筆記用具、テキスト、問題集 | | |
| 3 | 【3日目】問題演習 | | | パソコン、筆記用具、テキスト、問題集 | | |
| 4 | 【4日目】問題演習 | | | パソコン、筆記用具、テキスト、問題集 | | |
| 5 | | | | | | |
| 6 | | | | | | |
| 7 | | | | | | |
| 8 | | | | | | |
| 評価方法・成績評価基準 | | | | 履修上の注意 | | |
| 出席率と授業態度により評価を行う。 出席率80%未満の場合、原則として成績評価は行わない。 学習意欲40%、成果40%、出席20% 成績評価基準は、優(80点以上)・良(70点以上)・可(60点以上)・不可(59点以下)とする。 | | | | | | |
| 実務経験教員の経歴 | 講師は各事業にて実務経験あり。講演、講義経験あり。 | | | | | |

②

国際自然環境アウトドア専門学校 シラバス

| 科目名 | P C 演習 II | 授業形態 | 対面のみ | 授業の方法 | 演習 |
|---|--|------|--------------------|-------|------|
| 担当教員 | 望月巧 | | 実務授業の有無 | ○ | |
| 対象学科 | 山岳プロ/野外教育・アウトドアスポーツ/自然ガイド・環境保全/アウトドアプロインストラクター | 対象学年 | 2 | 開講時期 | 後期 |
| 必修・選択 | 必修 | 単位数 | | 時間数 | 32時間 |
| 授業概要、目的、授業の進め方 | Microsoft Excelを用いてビジネス社会における簡単なワーキシートの作成とデータ入力を行うことができる。同時にパソコン、表計算、ビジネス図表に関する基礎的な技能を習得する | | | | |
| 学習目標 (到達目標) | サーティファイEXCEL表計算処理技能認定試験3級 合格 | | | | |
| テキスト・教材・参考図書・その他資料 | excelクイックマスター、EXCEL表計算処理技能認定試験3級問題集 | | | | |
| 回数 | 授業項目、内容 | | 学習方法・準備学習・備考 | | |
| 1 | 【1日目】Excel基本操作 (データ編集、表の編集、ブックの印刷、グラフと図形の作成) | | パソコン、筆記用具、テキスト、問題集 | | |
| 2 | 【2日目】Excel基本操作 (ブックの利用と管理、関数、データベース機能) | | パソコン、筆記用具、テキスト、問題集 | | |
| 3 | 【3日目】問題演習 | | パソコン、筆記用具、テキスト、問題集 | | |
| 4 | 【4日目】問題演習 | | パソコン、筆記用具、テキスト、問題集 | | |
| 5 | | | | | |
| 6 | | | | | |
| 7 | | | | | |
| 8 | | | | | |
| 評価方法・成績評価基準 | | | 履修上の注意 | | |
| 出席率と授業態度により評価を行う。 出席率80%未満の場合、原則として成績評価は行わない。 学習意欲40%、成果40%、出席20% 成績評価基準は、優(80点以上)・良(70点以上)・可(60点以上)・不可(59点以下)とする。 | | | | | |
| 実務経験教員の経歴 | 講師は各事業にて実務経験あり。講演、講義経験あり。 | | | | |

②

国際自然環境アウトドア専門学校 シラバス

| 科目名 | コミュニケーション技法 | 授業形態 | 対面・遠隔併用 | 授業の方法 | 講義 |
|--|--|------|--|-------|------|
| 担当教員 | 小野 彰太 | | 実務授業の有無 | × | |
| 対象学科 | 野外教育・アウトドアスポーツ/自然ガイド・環境保全/山岳プロ/アウトドアプロインストラクター | 対象学年 | 1 | 開講時期 | 後期 |
| 必修・選択 | 必修 | 単位数 | | 時間数 | 16時間 |
| 授業概要、目的、授業の進め方 | コミュニケーション能力は数年連続で、企業が採用時に求める能力ランキングでダントツ1位となっています。これからのインターンシップや就職活動を見据え、基本的なコミュニケーションスキルやビジネスマナーを習得することを目的に授業を行います。 | | | | |
| 学習目標 (到達目標) | コミュニケーション検定 合格 | | | | |
| テキスト・教材・参考 図書・その他資料 | ■コミュニケーション検定初級_公式ガイドブック&問題集 | | | | |
| 回数 | 授業項目、内容 | | 学習方法・準備学習・備考 | | |
| 1 | コミュニケーションのもつ力 | | ■講義 ■グループワーク | | |
| 2 | 聞く力 | | ■講義 ■グループワーク | | |
| 3 | 話す力① | | ■講義 ■グループワーク | | |
| 4 | 話す力② | | ■講義 ■グループワーク | | |
| 5 | 来客対応 / 電話対応 | | ■講義 ■グループワーク | | |
| 6 | アポイントメント・訪問・挨拶 / 情報共有の重要性 / チーム・コミュニケーション | | ■講義 ■グループワーク | | |
| 7 | 接客・営業 / クレーム対応 | | ■講義 ■グループワーク | | |
| 8 | 会議・取材・ヒアリング / 面接 | | ■講義 ■グループワーク | | |
| 9 | | | | | |
| 10 | | | | | |
| 評価方法・成績評価基準 | | | 履修上の注意 | | |
| 出席率、受講態度、検定の可否によって総合的に評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。 | | | 以下のルールを守り、気持ちよく学びましょう。 ・授業の最初と最後はハッキリとした声で挨拶をすること ・ワークショップや話し合い、スピーチの機会があるときは、相手の話に頷いたり、自分の考えていることを発信するなど意思表示を心がけること(話し手への気遣い) | | |
| 実務経験教員の経歴 | 生涯学習室担当として、複数の事業案件に関わる。また、日本能率協会マネジメントセンターとのコミュニケーション、リーダーシップ育成プログラムの共同開発メンバー。コーチング活動も行う。 | | | | |

②

国際自然環境アウトドア専門学校 シラバス

| 科目名 | 上級救命講習 | 授業形態 | 対面のみ | 授業の方法 | 演習 |
|--|---|------|--|-------|-----|
| 担当教員 | 外部講師 | | 実務授業の有無 | ○ | |
| 対象学科 | 野外教育・アウトドアツアー/キャンプビジネス 自然ガイド・環境保全/自然環境保全学科/山岳プロ/アウトドアプロインストラクター | 対象学年 | 1 | 開講時期 | 前期 |
| 必修・選択 | 必修 | 単位数 | | 時間数 | 8時間 |
| 授業概要、目的、授業の進め方 | 人工呼吸法、心肺蘇生法、AEDの使用法、止血法等の習得及び救急車到着までの応急手当の重要性を認識し、日常生活及びアウトドア活動において自主救護能力の向上を図ることを目的とする。 | | | | |
| 学習目標 (到達目標) | 応急手当のやり方や流れを理解し、実践できるようになる。 | | | | |
| テキスト・教材・参考図書・その他資料 | 講習用テキスト配布 | | | | |
| 回数 | 授業項目、内容 | | 学習方法・準備学習・備考 | | |
| 1 | <ul style="list-style-type: none"> ■講師紹介挨拶 重要性・必要性(DVD) ■成人に対する心肺蘇生法(1人法実技) ■AED説明(DVD) ■CPR+AED(2人1組にて実施) ■効果測定(筆記試験) ■解説 ■効果測定(実技試験) ■各応急手当実技(止血・骨折/小児CPR/乳児CPR) ■各応急手当実技(外傷手当/搬送法・保温・熱中症/体位管理・異物除去) ■まとめ(質疑応答・事務連絡等) | | DVD視聴、口頭・実演による講習後、人工呼吸法・心肺蘇生法・AEDの使用法・止血法等を実践。 筆記試験と実技試験を行うことにより習熟度を確認する。 | | |
| | | | | | |
| | | | | | |
| | | | | | |
| 評価方法・成績評価基準 | | | | | |
| 出席率と授業態度により評価を行う。 出席率80%未満の場合、原則として成績評価は行わない。 成績評価基準は、優(80点以上)・良(70点以上)・可(60点以上)・不可(59点以下)とする。 | | | 修了証を発行するため最後に確認テストが行われます。 | | |
| 実務経験教員の経歴 | 外部講師：頸城消防署員 | | | | |

②

国際自然環境アウトドア専門学校 シラバス

| 科目名 | 山岳基礎知識 | 授業形態 | 対面・遠隔併用 | 授業の方法 | 講義 |
|--|--|------|--|-------|------|
| 担当教員 | 吉田美栄 | | 実務授業の有無 | × | |
| 対象学科 | 野外教育・アウトドアスポーツ/キャンプビジネス/ 自然ガイド・環境保全/自然環境保全学科/山 岳プロ/アウトドアプロインストラクター | 対象学年 | 1 | 開講時期 | 前期 |
| 必修・選択 | 必修 | 単位数 | | 時間数 | 24時間 |
| 授業概要、目的、 授業の進め方 | 用具や読図・ナビゲーション技術、気象判断などについて学び、自立した野外活動が行なえるようになるための基礎を身につけることを目的とします。また、妙高周辺の山について知り、自身の活動の幅を広げていきます。 | | | | |
| 学習目標 (到達目標) | 野外での活動に関わる基本的な知識を身につける。 | | | | |
| テキスト・教材・参考 図書・その他資料 | パワーポイント資料使用、その他配布資料。 | | | | |
| 回数 | 授業項目、内容 | | 学習方法・準備学習・備考 | | |
| 1 | 登山用具の知識：個人装備、レイヤリング等 各自必要装備の洗い出し（必要装備表作成） | | パワーポイント資料と登山用具を使用した学習 | | |
| 2 | ナビゲーション技術①（地形図の読み方及び、地形図の折 り方、磁北線） 基本的ロープワーク（ガイド検定内の基本の結び） | | パワーポイント資料を使用した学習および実習（ロープ ワーク） | | |
| 3 | ナビゲーション技術②：現在地の同定、コンパス、バックベアリ ング、クロスベアリング等 ナビゲーション技術③：ナビゲーション実践 | | パワーポイント資料を使用した学習および実習（フィール ドでの読図） | | |
| 4 | 山での行動計画及び行程表作成（概念図） 登山計画書作成方法及び、食料計画 | | パワーポイント資料を使用した学習 | | |
| 5 | 火器類の使用及びメンテナンス テント組み立て方・米炊き実践 | | パワーポイント資料を使用した学習および実習（ガソリン ストーブ・テントの使用方法和米炊き体験） | | |
| 6 | 山の天気（天気について基本的な座学） | | | | |
| 7 | 登山の傷病 登山概論 | | パワーポイント資料を使用した学習 | | |
| 8 | テスト 筆記 テスト 実技（ロープワーク） | | 授業内容全般から幅広く出題 | | |
| 評価方法・成績評価基準 | | | 履修上の注意 | | |
| 出席率と授業態度及び学期末テスト・実技テストにより評価を行う。 出席率80%未満の場合、原則として成績評価は行わない。 成績評価基準は、優(80点以上)・良(70点以上)・可(60点以上)・不可(59点 以下)とする。 | | | 登山だけでなく野外活動全般において、ベースになる知 識・技術なので、確実に身につけ、屋外での授業や実習 に不足なく取り組めるようにしてください。 | | |
| 実務経験教員の経歴 | | | | | |

②

国際自然環境アウトドア専門学校 シラバス

| 科目名 | スポーツ栄養学 | 授業形態 | 対面のみ | 授業の方法 | 講義 |
|---|---|------|--|-------|----|
| 担当教員 | 服部正秋 | | 実務授業の有無 | × | |
| 対象学科 | 山岳プロ/クライミングインストラクター学科/野外教育・アウトドアスポーツ/アウトドアプロインストラクター | 対象学年 | 1 | 開講時期 | 前期 |
| 必修・選択 | 必修 | 単位数 | | 時間数 | 16 |
| 授業概要、目的、授業の進め方 | 「スポーツ栄養学」という言葉が生まれたのはごく最近のことです。言葉の通り、一般の人が普段の生活で必要となる食事とスポーツの分野でトップを目指すための食事は全く別のものと言っても過言ではありません。本授業では自分自身の食生活の振り返りと改善策を見つけることを目標とします。 | | | | |
| 学習目標 (到達目標) | 相互関係にある基礎体力トレーニング実技で当授業での実践を行い、理論を理解している上で各体力要素が向上しているか定期的に測定、判断する。 | | | | |
| テキスト・教材・参考図書・その他資料 | 基礎から学ぶ！ スポーツ栄養学（ベースボールマガジン社） | | | | |
| 回数 | 授業項目、内容 | | 学習方法・準備学習・備考 | | |
| 1 | 栄養素と食品の基礎知識 ① エネルギーになる栄養素（炭水化物、脂質、タンパク質） | | テキスト、動画、（持ち物）筆記道具 | | |
| 2 | 栄養素と食品の基礎知識 ② 身体をつくる栄養素（タンパク質、ミネラル） | | テキスト、動画、（持ち物）筆記道具 | | |
| 3 | 栄養素と食品の基礎知識 ③ 身体のコンディションを調整する栄養素（ビタミン、水） | | テキスト、動画、（持ち物）筆記道具 | | |
| 4 | 身体のしくみ ～消化のしくみ、代謝・吸収のしくみ～ | | テキスト、動画、（持ち物）筆記道具 | | |
| 5 | エネルギー代謝のしくみ | | | | |
| 6 | コンディショニングのための食事① ～アスリートにとっての食事とは～ | | テキスト、動画、コンビニ製品、プロテインパウダー （持ち物）筆記道具 | | |
| 7 | コンディショニングのための食事② ～アスリートに必要な栄養素摂取とは～ | | テキスト、動画、スポーツドリンク （持ち物）筆記道具 | | |
| 8 | コンディショニングのための食事 ～競技力向上のための栄養摂取～ | | テキスト、動画、サプリメント、医薬品 （持ち物）筆記道具 | | |
| 評価方法・成績評価基準 | | | 履修上の注意 | | |
| 出席率と授業態度により評価を行う。 出席率80%未満の場合、原則として成績評価は行わない。 学習意欲40%、成果40%、出席20% 成績評価基準は、優(80点以上)・良(70点以上)・可(60点以上)・不可(59点以下)とする。 | | | 筆記用具、食事は毎日の事です。また競技力向上のためにはトレーニング・休養と同じようにきちんとした栄養摂取が必要となります。栄養素と食品の基本的な知識から、勝つためのスポーツ栄養学を学んでいきます。 | | |
| 実務経験教員の経歴 | 各自治体、スポーツクラブ等での講義経歴10年、当授業実務経歴7年 | | | | |

②

国際自然環境アウトドア専門学校 シラバス

| 科目名 | フィールド観察 | 授業形態 | 対面のみ | 授業の方法 | 演習 |
|--|---|--|---|-------|------|
| 担当教員 | 齋藤達也/田辺慎一/外部講師 | | 実務授業の有無 | ○ | |
| 対象学科 | 野外教育・アウトドアスポーツ/ 自然ガイド・環境保全/山岳プロ学科 | 対象学年 | 1 | 開講時期 | 通年 |
| 必修・選択 | 必修 | 単位数 | | 時間数 | 64時間 |
| 授業概要、目的、授業の進め方 | 妙高に生息する多種多様な生きものを題材として、生き物の基礎的な知識を習得し、自然の仕組みについて理解することを目的とする。 | | | | |
| 学習目標 (到達目標) | 身近に観察できる様々な生物（鳥、植物、昆虫、哺乳類、両生・爬虫類、水生生物、キノコ等）について、種類の同定ができるようになる。 | | | | |
| テキスト・教材・参考図書・その他資料 | ■新・山野の野鳥 ■新・水辺の野鳥 ■Field Guide 23 葉で見分ける樹木（増補版） ■新ヤマケイポケットガイド①野の花 ■その他配付資料 | | | | |
| 回数 | 授業項目、内容 | | 学習方法・準備学習・備考 | | |
| 1 | 鳥類の観察（i-nac周辺） | | 玄関でガイダンス後、フィールドに出かけて、野外学習を実施。 | | |
| 2 | 平地の水田の動植物観察（i-nac周辺水田） | | 玄関でガイダンス後、フィールドで野外学習を実施。●観察した動植物5種の生態・文化のレポートを提出（金曜日まで）。※雨天決行 | | |
| 3 | 川虫・両生類の観察（清流公園） | | 玄関でガイダンス後、フィールドで野外学習を実施。●観察した動植物5種の生態・文化のレポートを提出（金曜日まで）。※雨天時は別内容に変更 | | |
| 4 | ブナ林の豊凶調査（高床山寺尾） | | 玄関でガイダンス後、フィールドで野外学習を実施。●観察した動植物5種の生態・文化のレポートを提出（金曜日まで）。※雨天決行 | | |
| 5 | 植物（木、草、つる）①：樹木の同定（演習林） | | 玄関でガイダンス後、フィールドで野外学習を実施。●観察した樹種5種の同定ポイントについてのレポートを提出（金曜日まで）。※雨天決行 | | |
| 6 | 植物（木、草、つる）②：樹木・草本の同定（演習林） | | 玄関でガイダンス後、フィールドで野外学習を実施。●観察した樹種5種の同定ポイントについてのレポートを提出（金曜日まで）。※雨天決行 | | |
| 7 | 植物（木、草、つる）③：樹木・草本の同定（高床山） | | 玄関でガイダンス後、フィールドで野外学習を実施。●観察した樹種5種の同定ポイントについてのレポートを提出（金曜日まで）。※雨天決行 | | |
| 8 | 前期末テスト | | 期末試験は2種類：①午前：水田・河川の生物のテスト、②午後：樹木の50種同定 | | |
| 9 | ため池のガサガサ調査 | | 玄関でガイダンス後、フィールドで野外学習を実施。●観察した事象についてのレポートを提出（金曜日まで）。※雨天時は別内容に変更 | | |
| 10 | 昆虫のトラップ採集 | | 玄関でガイダンス後、フィールドで野外学習を実施。●観察した事象についてのレポートを提出（金曜日まで）。※雨天決行 | | |
| 11 | 自然観光スポット（いもり池周辺）の自然観察 | | 玄関でガイダンス後、フィールドで野外学習を実施。●観察した事象についてのレポートを提出（金曜日まで）。※雨天時は別内容に変更 | | |
| 12 | キノコの観察 | | 教室でガイダンス後、フィールドに出かけて、野外学習を実施。外部講師担当。 | | |
| 13 | 鳥類の観察（朝日池予定） | | 玄関でガイダンス後、フィールドで野外学習を実施。●観察した事象についてのレポートを提出（金曜日まで）。※雨天決行 | | |
| 14 | 晩秋の生き物観察（花房山・高床山） | | 教室でガイダンス後、フィールドに出かけて、野外学習を実施。●授業最後に小テスト実施。 | | |
| 15 | 朝日池にて冬鳥（水鳥）の観察 | | 玄関でガイダンス後、フィールドで野外学習を実施。●観察した事象についてのレポートを提出（金曜日まで）。※雨天決行 | | |
| 16 | 冬の生物観察（哺乳類の足跡・食跡、樹木の冬芽）（花房山・高床山あるいは妙高自然の家） | | 玄関でガイダンス後、フィールドで野外学習を実施。●観察した事象についてのレポートを提出（金曜日まで）。※雨天決行 | | |
| 評価方法・成績評価基準 | | | 履修上の注意 | | |
| 出席日数、授業態度、適宜おこなう習熟度テストをもとに総合的に判断する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。 | | | ■授業の最後に小テストを実施する回があります。 ■自然ガイド・環境保全学科は2年次に生物分類技能検定3級を受験しますので、しっかりと生きものを見分けられるようになってください。 | | |
| 実務経験教員の経歴 | | 齋藤：保全生態学研究者として、大学および自然系博物館において生物多様性研究や自然体験学習に6年間従事。田辺慎一：森林生態学の研究者として、6年間研究職および保全プロジェクトに従事。また、自然系博物館で森林資源評価・保全と地域活性化に2年間従事。 | | | |

②

国際自然環境アウトドア専門学校 シラバス

| 科目名 | スポーツ生理学 | 授業形態 | 対面のみ | 授業の方法 | 講義 |
|--|--|------|--------------------|-------|------|
| 担当教員 | 服部正秋 | | 実務授業の有無 | × | |
| 対象学科 | 野外教育・アウトドアスポーツ/ 山岳プロ/クライミングインストラクター | 対象学年 | 1 | 開講時期 | 前期 |
| 必修・選択 | 必修 | 単位数 | | 時間数 | 16時間 |
| 授業概要、目的、 授業の進め方 | 運動生理学は、運動によって身体にどのような変化が応じるのか、その現象と仕組みについての基礎を理解する学問である。運動中（活動中）に身体の内部がどのような生理学的変化をするのかを学び、運動生理学の知識を身につけることで、体力の向上・健康の維持・増進のための方法について理解する。 | | | | |
| 学習目標 (到達目標) | 相互関係にある基礎体力トレーニング実技で当授業での実践を行い、理論を理解している上で各体力要素が向上しているか定期的に測定、判断する。 | | | | |
| テキスト・教材・参考 図書・その他資料 | 登山の運動生理学百科、A cross-country skier's training based on exercise physiology | | | | |
| 回数 | 授業項目、内容 | | 学習方法・準備学習・備考 | | |
| 1 | 運動生理学とは？（筋線維タイプについて （あなたはマグロ系？鯛系？それとも、、、）） | | テキスト、動画、（持ち物）筆記道具 | | |
| 2 | 筋力について マッチョなボディビルダーは、マラソンが走れるか??) | | テキスト、動画、（持ち物）筆記道具 | | |
| 3 | エネルギー代謝とエネルギー供給系 | | テキスト、動画、（持ち物）筆記道具 | | |
| 4 | ①持久力とは？呼吸循環系の持久力 （心拍で運動コントロール） | | テキスト、動画、実技、心拍計にて実施 | | |
| 5 | ②持久力とは？筋持久力（登山しよう！トレランしよう！ 山は天然トレーニングジム） | | テキスト、動画、実技、心拍計にて実施 | | |
| 6 | 効果的な持久トレーニング（最新!!ノルディックフィット ネス） 神経について（神経が筋肉を司る） | | | | |
| 7 | 成長過程で考えるトレーニング （継続は力なり！でもやみくもにやってもねえ、、、） | | テキスト、動画、実技 | | |
| 8 | 登山と疲労。登山と体力トレーニング。 （山が好きな人はとっても大事） | | テキスト、動画、 | | |
| 評価方法・成績評価基準 | | | 履修上の注意 | | |
| 出席率と授業態度により評価を行う。 出席率80%未満の場合、原則として成績評価は行わない。 成績評価基準は、優(80点以上)・良(70点以上)・可(60点以上)・不可(59点以下)とする。 | | | 筆記用具、時計 | | |
| 実務経験教員の経歴 | 各自治体、スポーツクラブ等での講義経歴10年、当授業実務経歴7年 | | | | |

| 科目名 | アウトドアインストラクター概論 | | 授業形態 | 対面・遠隔併用 | 授業の方法 | 演習 |
|--|--|------|---------|--|-----------|----|
| 担当教員 | 小野 彰太 | | 実務授業の有無 | ○ | | |
| 対象学科 | アウトドアプロインストラクター | 対象学年 | 1 | 開講時期 | 通年(前期・後期) | |
| 必修・選択 | 必修 | 単位数 | | 時間数 | 80時間 | |
| 授業概要、目的、授業の進め方 | アウトドア環境でのインストラクション。ガイディングは、基本(安全管理、セーフティワーク、ゲストのケアなど)となる知識・技術がある一方で、個性(自然の見方、感じ方、そのフィールドの生かし方、表現の仕方)は様々である。また、この個性が今後ガイドとしての軸となることから、本授業ではインストラクション。ガイディングにおける基本(ベーシック)を確認しながらも、様々な現役インストラクター、ガイドの個性に触れることでその実態を認識する。また、自分の個性の獲得の糧とする。 | | | | | |
| 学習目標(到達目標) | <ul style="list-style-type: none"> ・指導者としての基本要素(安全管理、コミュニケーション、配慮など)について認識し、理解する。 ・指導者としての個性(自然や土地への知見、考え、表現)について認識し、自らの個性(共感できる部分)を獲得する。 | | | | | |
| テキスト・教材・参考図書・その他資料 | パワーポイント資料使用、その他配布資料。 | | | | | |
| 回数 | 授業項目、内容 | | | 学習方法・準備学習・備考 | | |
| 1 | 授業ガイダンス、アウトドアインストラクターとは、指導者の存在、体験学習について | | | 担当：小野 講義、体験学習、グループワーク | | |
| 2 | スクール体験(雪上滑走) | | | 担当：小野 体験学習 | | |
| 3 | ツアー体験(残雪の自然散策) | | | 担当：小野 体験学習 | | |
| 4 | オンライン授業 「3人のガイドのリアル。私がガイドになった理由」 | | | 担当：小野 講師：中野かな(なかの kayak)、工藤克史(テントテントツアーズ)、 田中耕太郎(ANCHAN TOURS) ※敬称略 講義、グループワーク、 | | |
| 5 | 地域の資源を考える。 「なぜノルディックハーフマラソンは人気なのか?」 | | | 担当：服部 講義、体験学習、グループワーク | | |
| 6 | スクール体験(外岩クライミング) | | | 担当：小野 体験学習 | | |
| 7 | ツアー体験(ラフティング) | | | 担当：小野 講師：庚敏久(Power Drive R117) ※敬称略 体験学習 | | |
| 8 | ツアー体験(SUP) | | | 担当：小野 講師：河野健児(NOZAWA GREEN FIELD) ※敬称略 体験学習 | | |
| 9 | スクール体験(サーフィン) | | | 担当：小野 講師：中村 昭彦(一滴 Paddle & Mountain Guide) ※敬称略 体験学習 | | |
| 10 | スクール体験(トレイルランニング) | | | 担当：小野(予定) 講師：石川 弘樹(プロトレイルランナー) ※敬称略 体験学習 | | |
| 11 | ツアー体験(秋の自然ガイド) | | | 担当：小野 講師：小林 敬明 ※敬称略 体験学習 | | |
| 12 | インストラクター体験 ノルディック教室山ノ内町 | | | 担当：小野、服部 体験学習、グループワーク OES2の実践の場に帯同。オブザーバーとして現場を見て学ぶ。 | | |
| 13 | KOKUTOプログラム体験(OES2年生企画) | | | 担当：服部 体験学習、グループワーク OES2の企画したプログラムをモニターとして体験。 | | |
| 14 | インストラクター体験(スキー)※予定 スキー指導の現場と60年近くも続く理由、他 | | | 担当：小野(予定) 講師：山之内 弘(予定) ※敬称略 体験学習 | | |
| 15 | まとめ ワークショップ「自分の目指すインストラクター」 | | | 担当：小野 | | |
| 16 | ツアー体験(冬の自然ガイド) | | | 講師：小林 敬明 ※敬称略 体験学習 | | |
| 評価方法・成績評価基準 | | | | 履修上の注意 | | |
| 出席率、授業態度、主体性、及び各種提出物から総合的に評価します。議論への参加姿勢も評価対象となります。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。 | | | | 外部連携の多い授業でもあります。貴重な機会ですので、遅刻や欠席の無いように自己管理に努めてください。 また、自身がゲストとなって体験できる機会は貴重です。 将来のガイドとして、ゲストの気持ちを理解することを忘れないようにして下さい。 | | |
| 実務経験教員の経歴 | 小野：野尻湖でのカヤック、SUPガイド。初心者向けのカヤック体験会の企画・運営などの経験多数。自身の所属するJSCA(日本セーフティカヌーイング協会)ベーシック検定員。自然ガイド。 服部：自身の所属するJNFA(日本ノルディックフィットネス協会)ナショナルトレーナー。数多くのインストラクターの排出。自身もKOKUTO iyama homeを通じてアウトドアスポーツの普及に努める。 | | | | | |

②

国際自然環境アウトドア専門学校 シラバス

| 科目名 | ライフスタイルゼミ | 授業形態 | 対面・遠隔併用 | 授業の方法 | 演習 |
|---|--|------|---|-------|------|
| 担当教員 | 小野 彰太 | | 実務授業の有無 | ○ | |
| 対象学科 | アウトドアプロインストラクター 学科 | 対象学年 | 1 | 開講時期 | 後期 |
| 必修・選択 | 必修 | 単位数 | | 時間数 | 24時間 |
| 授業概要、目的、 授業の進め方 | <p>アウトドアインストラクター及びガイドの中には自身の人生（ライフ）の中にも自然との繋がりを大切にしている方が多い。それは何故なのか？また、そういったライフスタイルがアウトドアインストラクター、ガイドに与える影響は何なのか？を考察することは、持続的なアウトドアインストラクター、ガイドを目指す上で不可欠である。</p> <p>この授業では、活躍するアウトドアパーソン（アウトドアインストラクター）のライフスタイルやその人生観に触れ、考察することで自身の生き方（ライフスタイル）を考えるきっかけとする。</p> <p>また、暮らしに根ざしたアウトドアスポーツを通じて、アウトドアの価値観を拡げることが目的とする。</p> | | | | |
| 学習目標 (到達目標) | <ul style="list-style-type: none"> ・自然に根ざした暮らしや価値観が持続的なアウトドアインストラクター、ガイドにどんな影響をもたらすか自論を持つ。 ・自分に合ったライフスタイルやアウトドア活動について、自身の趣向、選択肢を認識する。 | | | | |
| テキスト・教材・参考 図書・その他資料 | 動画資料。及び、教材を自ら作成する。 | | | | |
| 回数 | 授業項目、内容 | | 学習方法・準備学習・備考 | | |
| 1 | 授業ガイダンス、ライフスタイルとは何か、あなたの望む生き方とは？ 動画「FROM THE TRAILS」 | | 担当：小野 講義、体験学習、グループワーク | | |
| 2 | 動画視聴、何故アウトドアパーソンは命をかけるのか？ | | 担当：小野 体験学習、グループワーク | | |
| 3 | 動画視聴、海と共にある暮らしから見えるもの | | 担当：小野 体験学習、グループワーク | | |
| 4 | 動画「雪板生活」他、雪板という選択肢 | | 担当：小野 体験学習、グループワーク、 | | |
| 5 | 実習、雪板制作① | | 担当：小野 体験学習 | | |
| 6 | 実習、雪板制作② | | 担当：小野 体験学習 | | |
| 7 | 動画「Persona」、雪の上を滑るとい遊び | | 担当：小野 体験学習、グループワーク、 | | |
| 8 | まとめ 動画「IKIGAI」、IKIGAIとは何か？ | | 担当：小野 体験学習、グループワーク、 | | |
| 評価方法・成績評価基準 | | | 履修上の注意 | | |
| <p>出席率、授業態度、主体性、及び各種提出物から総合的に評価します。対話への参加姿勢も評価対象となります。</p> <p>成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。</p> | | | <p>動画視聴が多い授業ですが、価値観を拡げる機会になると思いますので積極的に受講して下さい。</p> <p>また、実習については講師の都合などで予定が変更となる場合もあります。その際は、柔軟に対応できるようにご協力ください。</p> | | |
| 実務経験教員の経歴 | | | <p>小野：野尻湖でのカヤック、SUPガイド。初心者向けのカヤック体験会の企画・運営などの経験多数。</p> <p>自身の所属するJSCA（日本セーフティカヌーイング協会）ベーシック検定員。自然ガイド。</p> | | |

②

国際自然環境アウトドア専門学校 シラバス

| 科目名 | アウトドアスポーツ | 授業形態 | 対面のみ | 授業の方法 | 実技 |
|--|---|------|--|-------|------|
| 担当教員 | 服部正秋/田辺慎一/外部講師 | | 実務授業の有無 | ○ | |
| 対象学科 | 自然ガイド・環境保全/野外教育・アウトドアスポーツ/アウトドアプロインストラクター | 対象学年 | 1 | 開講時期 | 通年 |
| 必修・選択 | 必修 | 単位数 | | 時間数 | 48時間 |
| 授業概要、目的、授業の進め方 | 無積雪期、積雪期の山岳地域で、安全に登山を行うための技術を習得するとともに、アウトドアスポーツ全般を体験し幅広い分野の野外活動を実践できるようになる。3年間の目標である登山ガイド及び自然ガイドの資格取得のために、野外活動の基礎であるナビゲーションスキル・ロープワークを習得することを目的とする。 | | | | |
| 学習目標 (到達目標) | 無積雪期の山岳地域で、安全に登山を行うための技術を習得するとともに、アウトドアスポーツ全般を体験し幅広い分野の野外活動を実践できるようになる。 | | | | |
| テキスト・教材・参考図書・その他資料 | 登山地図、25,000分の1地形図（国土地理院発行）、その他配布資料 | | | | |
| 回数 | 授業項目、内容 | | 学習方法・準備学習・備考 | | |
| 1 | クライミング基礎 (i-nacウォール) | | 山岳プロ学科1年と合同 | | |
| 2 | クライミング基礎 (i-nacウォール) | | 山岳プロ学科1年と合同 | | |
| 3 | クライミング基礎 (物見岩) | | 山岳プロ学科1年と合同 | | |
| 4 | ノルディックウォーキング | | | | |
| 5 | ナビゲーション基礎 (笹ヶ峰) | | 山岳プロ学科1年と合同 | | |
| 6 | MTB | | | | |
| 7 | カヤック | | | | |
| 8 | SUP | | | | |
| 評価方法・成績評価基準 | | | 履修上の注意 | | |
| 出席率と授業態度、技術習熟レベル等、総合的に評価を行う。 出席率80%未満の場合、原則として成績評価は行わない。 学習意欲40%、成果40%、出席20% 成績評価基準は、優(80点以上)・良(70点以上)・可(60点以上)・不可(59点以下)とする。 | | | 授業内容によっては、体力のレベルに応じて、難易度が変化します。日頃から基礎体力の向上に努めるようにしてください。 | | |
| 実務経験教員の経歴 | 服部：各自治体、フィットネスジム、スポーツクラブ等での講義経歴10年、当授業実務経歴7年、外部講師：実務経験5年以上 | | | | |

②

国際自然環境アウトドア専門学校 シラバス

| 科目名 | プログラム企画運営Ⅰ | 授業形態 | 対面のみ | 授業の方法 | 演習 |
|---|--|------|---|-------|----|
| 担当教員 | 服部正秋 | | 実務授業の有無 | × | |
| 対象学科 | アウトドアプロインストラクター | 対象学年 | 1 | 開講時期 | 後期 |
| 必修・選択 | 必修 | 単位数 | | 時間数 | 16 |
| 授業概要、目的、授業の進め方 | アウトドアスポーツの体験教室の企画運営を通して、マネジメント能力を身につける。同時に企画運営のノウハウを学ぶ事でより現場に近い職業観を身につける | | | | |
| 学習目標 (到達目標) | アウトドアスポーツの体験教室の企画運営を行う。(年間2回) | | | | |
| テキスト・教材・参考図書・その他資料 | 特になし | | | | |
| 回数 | 授業項目、内容 | | 学習方法・準備学習・備考 | | |
| 1 | オリエンテーション | | パソコン、筆記用具、クライミング用具一式 | | |
| 2 | 第1回目アウトドア教室 役割分担決定 コンセプト | | パソコン、筆記用具、クライミング用具一式 | | |
| 3 | 第1回目アウトドア教室企画 | | パソコン、筆記用具、クライミング用具一式 | | |
| 4 | 第1回目アウトドア教室企画 | | パソコン、筆記用具、クライミング用具一式 | | |
| 5 | 第1回目アウトドア教室リハーサル | | パソコン、筆記用具、クライミング用具一式 | | |
| 6 | 第1回目アウトドア教室リハーサル | | パソコン、筆記用具、クライミング用具一式 | | |
| 7 | 第1回目アウトドア教室 実施 | | パソコン、筆記用具、クライミング用具一式 | | |
| 7 | まとめ、振り返り、メンテナンス | | パソコン、筆記用具、クライミング用具一式 | | |
| 8 | 第2回目アウトドア教室リハーサル | | パソコン、筆記用具、クライミング用具一式 | | |
| 9 | 第2回目アウトドア教室 実施 | | パソコン、筆記用具、クライミング用具一式 | | |
| | | | | | |
| 評価方法・成績評価基準 | | | 履修上の注意 | | |
| 出席率と授業態度により評価を行う。 出席率80%未満の場合、原則として成績評価は行わない。 学習意欲40%、成果40%、出席20% 成績評価基準は、優(80点以上)・良(70点以上)・可(60点以上)・不可(59点以下)とする。 | | | ・雨が降らなければ屋外でのトレーニングを行います。動きやすい服装、シューズで出席してください。また雨天時は室内でのトレーニングを行うため室内シューズが必要になります。ケガ等でできない場合は前日までに申し出るようにお願いします。 | | |
| 実務経験教員の経歴 | 各自治体、フィットネスジム、スポーツクラブ等での実務経歴10年、当授業実務経歴7年 | | | | |

②

国際自然環境アウトドア専門学校 シラバス

| 科目名 | 専門科目トレーニング | 授業形態 | 対面のみ | 授業の方法 | 実技 |
|---|--|---|---|-------|------|
| 担当教員 | 小野 彰太 | | 実務授業の有無 | ○ | |
| 対象学科 | アウトドアプロインストラクター 学科 | 対象学年 | 1 | 開講時期 | 後期 |
| 必修・選択 | 必修 | 単位数 | | 時間数 | 24時間 |
| 授業概要、目的、 授業の進め方 | <p>本学科では、通年を通してアウトドアのインストラクター、ガイドを目指していく。その為には、それぞれの求める専門性について、自らが打ち込み学んでいく姿勢が不可欠である。</p> <p>本授業では、自らの専門性に対して深めたい、①対象を設定、②現状を把握、③目標を定め、④計画的に実行していく過程で、今後自らの専門性を自分で切り開いていく基礎を身につけることを目的とする。</p> | | | | |
| 学習目標 (到達目標) | <ul style="list-style-type: none"> ・自ら深めたい対象を設定し、主観的、客観的な情報から現状を理解する。 ・上達する為の目標を定め、効果的なトレーニングを自ら考案し、実行できる。 | | | | |
| テキスト・教材・参考 図書・その他資料 | 適宜、資料情報があれば提供。 | | | | |
| 回数 | 授業項目、内容 | | 学習方法・準備学習・備考 | | |
| 1 | 深めたい専門性の対象を検討、設定 | | 担当：小野 講義、体験学習、グループワーク | | |
| 2 | 自らの専門性について情報收拾。主観的、客観的に評価 | | 担当：小野 体験学習、グループワーク | | |
| 3 | トレーニング案の立案 | | 担当：小野 体験学習、グループワーク | | |
| 4 | トレーニングの実践 | | 担当：小野 体験学習、グループワーク、 | | |
| 5 | トレーニングの実践、中間評価 | | 担当：小野 体験学習 | | |
| 6 | トレーニングの実践 | | 担当：小野 体験学習 | | |
| 7 | トレーニングの実践 | | 担当：小野 体験学習、グループワーク、 | | |
| 8 | まとめ、自らトレーニングをすること | | 担当：小野 体験学習、グループワーク、 | | |
| 評価方法・成績評価基準 | | | 履修上の注意 | | |
| <p>出席率、授業態度、主体性、及び各種提出物から総合的に評価します。対話への参加姿勢も評価対象となります。</p> <p>成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。</p> | | | <p>自らのカリキュラムを自身で決めることが大切な授業です。実現可能な範囲に留まらず、しっかりと「成長」できるように取り組みましょう。</p> | | |
| 実務経験教員の経歴 | | <p>小野：野尻湖でのカヤック、SUPガイド。初心者向けのカヤック体験会の企画・運営などの経験多数。</p> <p>自身の所属するJSCA（日本セーフティカヌーイング協会）ベーシック検定員。自然ガイド。</p> | | | |

| 科目名 | アウトドアフィットネスⅠ | | | 授業の方法 | 演習 |
|--|---|------|--|-------|------|
| 担当教員 | 小野 彰太、服部 正秋 | | 実務授業の有無 | ○ | |
| 対象学科 | アウトドアプロインストラクター 学科 | 対象学年 | 1 | 開講時期 | 通年 |
| 必修・選択 | 必修 | 単位数 | | 時間数 | 32時間 |
| 授業概要、目的、 授業の進め方 | 近年、人々の健康志向は向上傾向にあり、その中でも健康寿命の延長は人生100年時代を充実して生きるためにも重要な位置づけとなる。フィットネス業界では、コロナ禍もあいまってアウトドアでのプログラム実施が広がりを見せている。この授業では、通年でアウトドアフィットネスを実践することで ・本質的なアウトドアフィットネスの理解 ・自身の運動習慣、健康づくりの実践 を目的とする。授業は、クライミング、ランニング、ウォーキング、サイクリング、パドルスポーツ（予定）と種目選択制とし、安全管理上二人以上のコミュニティを作って実施する。 | | | | |
| 学習目標 (到達目標) | ・アウトドアフィットネスについて理解し説明ができるようになる ・天候、季節に応じて種目を選択し、無理なくアウトドアスポーツを続けられるようになる | | | | |
| テキスト・教材・参考 図書・その他資料 | テキスト：山と溪谷社「スポーツクライミング教本」、他適宜資料配布 | | | | |
| 回数 | 授業項目、内容 | | 学習方法・準備学習・備考 | | |
| 1 | ガイダンス、ボルダリング種目について、フィットネス実践 | | 講義、経験学習、アプリ活用 | | |
| 2 | ノルディックウォーキング種目について、フィットネス 実践 | | 講義、経験学習、アプリ活用 | | |
| 3 | サイクリング種目について、フィットネス 実践 | | 講義、経験学習、アプリ活用 | | |
| 4 | パドルスポーツ種目について（予定）、フィットネス 実践 | | 講義、経験学習、アプリ活用 | | |
| 5 | フィットネス 実践 | | 経験学習、アプリ活用 | | |
| 6 | フィットネス 実践 | | 経験学習、アプリ活用 | | |
| 7 | フィットネス 実践 | | 経験学習、アプリ活用 | | |
| 8 | 中間ミーティング(意見交換、トリップについて)、フィットネス 実践 | | グループワーク、経験学習、アプリ活用 | | |
| 9 | トレイルランニング種目について、フィットネス実践 | | 講義、経験学習、アプリ活用 | | |
| 10 | フィットネス 実践 | | 経験学習、アプリ活用 | | |
| 11 | フィットネス 実践 | | 経験学習、アプリ活用 | | |
| 12 | フィットネス 実践 | | 経験学習、アプリ活用 | | |
| 13 | フィットネス 実践 | | 経験学習、アプリ活用 | | |
| 14 | フィットネス 実践 | | 経験学習、アプリ活用 | | |
| 15 | スノースポーツ種目について、フィットネス実践 | | 講義、経験学習、アプリ活用 | | |
| 16 | 終了ミーティング（まとめ） | | グループワーク、経験学習 | | |
| 評価方法・成績評価基準 | | | 履修上の注意 | | |
| 出席率、授業態度、主体性、及びログ（記録）やレポート課題から総合的に評価します。特に継続する姿勢に重点を置いていますので、出席に関する比重は高くなります。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。 | | | ・スマートフォンのアプリを活用する機会があります。常時、スマートフォンは携帯をしてください。 ・アプリ、ノート、教員が用意したフォーマットいずれでも構いません。ログをとり、自身の健康を客観的に見られるように努めてください。 ・仲間と自然と一緒に、継続を心がけましょう。 | | |
| 実務経験教員の経歴 | 小野：野尻湖でのカヤック、SUPガイド。初心者向けのカヤック体験会の企画・運営などの経験多数。 自身の所属するJSCA（日本セーフティカヌーイング協会）ベーシック検定員。自然ガイド。 服部：自身の所属するJNFA（日本ノルディックフィットネス協会）ナショナルトレーナー。数多くのインストラクターの排出。自身もKOKUTO iiyama homeを通じてアウトドアスポーツの普及に努める。 | | | | |

| 科目名 | 基礎体力トレーニング | 授業形態 | 対面のみ | 授業の方法 | 実技 |
|--|---|---|---------|-------|------|
| 担当教員 | 服部正秋 | | 実務授業の有無 | ○ | |
| 対象学科 | 野外教育・アウトドア・自然ガイド・環境保全/山岳プロ/アウトドアプロインストラクター | 対象学年 | 1 | 開講時期 | 通年 |
| 必修・選択 | 必修 | 単位数 | | 時間数 | 32時間 |
| 授業概要、目的、授業の進め方 | フィールドで活動するために必要な持久力、筋力等の基礎的な体力を身に付けるために、体力・トレーニングに関連する知識を獲得し、トレーニング法の実践を学ぶ。 | | | | |
| 学習目標 (到達目標) | 授業でのトレーニングや課題を通して、呼吸循環持久力、筋持久力、筋力、を付ける | | | | |
| テキスト・教材・参考図書・その他資料 | 特になし | | | | |
| 回数 | 授業項目、内容 | 学習方法・準備学習・備考 | | | |
| 1 | オリエンテーション、ランニングコースの確認(ランニング) トンネル8km 5分歩き5分走り(60%) | (雨天時) ふれあいパーク体育館及びJWSCトレーニングルーム(持ち物) ランニングシューズ、上履き、タオル、着替え、飲み物 | | | |
| 2 | ウォーク&ラン 自分にあつたペースを探ろう(運動強度60%以下速歩:70%以上ラン) トンネル8km | (雨天時) ふれあいパーク体育館及びJWSCトレーニングルーム(持ち物) ランニングシューズ、上履き、タオル、着替え、飲み物 | | | |
| 3 | ランニングふれパコース ウォーク&ラン 姿勢の確認(姿勢作り、ポイント確認) ふれパ60分 | (雨天時) ふれあいパーク体育館及びJWSCトレーニングルーム(持ち物) ランニングシューズ、上履き、タオル、着替え、飲み物 | | | |
| 4 | ウォーク&ラン 自分にあつたペースを探ろう(運動強度60%以下:70%以上) NHMコース | (雨天時) ふれあいパーク体育館及びJWSCトレーニングルーム(持ち物) ランニングシューズ、上履き、タオル、着替え、飲み物 | | | |
| 5 | ランニングサーキット(筋持久力+全身持久力 1度で2度美味しいトレーニング) | (雨天時) ふれあいパーク体育館及びJWSCトレーニングルーム(持ち物) ランニングシューズ、上履き、タオル、着替え、飲み物 | | | |
| 6 | ウォーク&ラン 自分にあつたペースを探ろう(運動強度60%以下:70%以上) NHMコース | | | | |
| 7 | 下半身サーキットJP系(下半身に特化した筋力トレーニングをしよう) ふれパ20分×2セット | (雨天時) ふれあいパーク体育館及びJWSCトレーニングルーム(持ち物) ランニングシューズ、上履き、タオル、着替え、飲み物 | | | |
| 8 | ジョグ&ラン(運動強度60%以下:70%以上) ふれパ上り100mダッシュ | (雨天時) ふれあいパーク体育館及びJWSCトレーニングルーム(持ち物) ランニングシューズ、上履き、タオル、着替え、飲み物 | | | |
| 9 | ラン 自分にあつたペースを探ろう(運動強度70%以下) MURA10kmコース | (雨天時) ふれあいパーク体育館及びJWSCトレーニングルーム(持ち物) ランニングシューズ、上履き、タオル、着替え、飲み物 | | | |
| 10 | ラン まだらお毛無山&希望湖 トレイルラン | (雨天時) ふれあいパーク体育館及びJWSCトレーニングルーム(持ち物) ランニングシューズ、上履き、タオル、着替え、飲み物 | | | |
| 11 | ラン 信越五岳コース アパ〜学校(約8km) トレイルラン | (雨天時) ふれあいパーク体育館及びJWSCトレーニングルーム(持ち物) ランニングシューズ、上履き、タオル、着替え、飲み物 | | | |
| 12 | ラン 信越五岳コース 蔵々〜アパ(約5km) 上りトレイルラン | (雨天時) ふれあいパーク体育館及びJWSCトレーニングルーム(持ち物) ランニングシューズ、上履き、タオル、着替え、飲み物 | | | |
| 13 | SAQトレーニング&ラン ふれパ(体育館) | ふれあいパーク体育館及びJWSCトレーニングルーム(持ち物) ランニングシューズ、上履き、タオル、着替え、飲み物 | | | |
| 14 | ラン&サーキットトレーニング ふれパ(体育館) | ふれあいパーク体育館及びJWSCトレーニングルーム(持ち物) ランニングシューズ、上履き、タオル、着替え、飲み物 | | | |
| 15 | 室内での筋力トレーニング(JWSC) | ふれあいパーク体育館及びJWSCトレーニングルーム(持ち物) ランニングシューズ、上履き、タオル、着替え、飲み物 | | | |
| 16 | 室内での筋力トレーニング(JWSC) | ふれあいパーク体育館及びJWSCトレーニングルーム(持ち物) ランニングシューズ、上履き、タオル、着替え、飲み物 | | | |
| 評価方法・成績評価基準 | | 履修上の注意 | | | |
| 出席率と授業態度により評価を行う。 出席率80%未満の場合、原則として成績評価は行わない。 成績評価基準は、優(80点以上)・良(70点以上)・可(60点以上)・不可(59点以下)とする。 | | ・雨が降らなければ屋外でのトレーニングを行います。動きやすい服装、シューズで出席してください。また雨天時は室内でのトレーニングを行うため室内シューズが必要になります。ケガ等でできない場合は前日までに申し出るようにお願いします。 | | | |
| 実務経験教員の経歴 | 各自治体、フィットネスジム、スポーツクラブ等での講義経歴10年、当授業実務経歴7年 | | | | |

②

国際自然環境アウトドア専門学校 シラバス

| 科目名 | マリンスポーツ実習 | | 授業形態 | 対面のみ | 授業の方法 | 実習 |
|--|--|---|---------|--|-------|----|
| 担当教員 | 小野 彰太、非常勤講師 | | 実務授業の有無 | ○ | | |
| 対象学科 | 野外教育・アウトドアスポーツ/ アウトドアプロインストラク ター学科 | 対象学年 | 2/1 | 開講時期 | 前期 | |
| 必修・選択 | 必修 | 単位数 | | 時間数 | 32時間 | |
| 授業概要、目的、 授業の進め方 | 2泊3日の海上、海浜活動を通して、以下の目標および技術習得を達成し海というフィールドの理解と魅力を体得することを目的とする。 | | | | | |
| 学習目標 (到達目標) | <input checked="" type="checkbox"/> カヤックキャンプツーリングに必要な技術、知識の習得 <input checked="" type="checkbox"/> 海というフィールドについての特性、魅力、危険性について理解する <input checked="" type="checkbox"/> フィールドを持続的に利用していくという視座を持つ | | | | | |
| テキスト・教材・参考 図書・その他資料 | 適宜資料として配布 | | | | | |
| 回数 | 授業項目、内容 | | | 学習方法・準備学習・備考 | | |
| 1 | オリエンテーション、目標設定、装備・食材準備、遠征計画作成 | | | 講義、グループワーク（個人作業⇒グループ共有⇒全体共有）、分担作業（食材準備、装備準備） | | |
| 2 | 実習地移動、カヤックオリエンテーション、キャンプ地オリエンテーション、テント・タープ設営、野外炊事①、シュノーケリング、フィッシング、テント泊 | | | 講義、実地演習、振り返り・グループワーク | | |
| 3 | 野外炊飯②、カヤックツーリング（キャンプ地～福浦八景～番神海水浴場）、野外炊飯③、テント泊 | | | 実地演習、グループワーク、振り返り | | |
| 4 | 野外炊飯④、撤収、カヤック移動、実習総括 | | | 実地演習、ふりかえり、レポート作成 | | |
| 5 | | | | | | |
| 6 | | | | | | |
| 評価方法・成績評価基準 | | | | 履修上の注意 | | |
| 出席率、授業姿勢、実習中の発表内容、実習後レポートから総合的に評価を行います。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。 | | | | アウトドアスポーツ実習で培ったカヤックスキルの応用実習です。各自、カヤックに関する知識、スキルを確認して実習に臨んで下さい。また、キャンプスキルについても今までの経験が活きてきます。積極的に参加し、効率よく学びの場を作ってください。 | | |
| 実務経験教員の経歴 | | 小野：野尻湖でのカヤック、SUPガイド。初心者向けのカヤック体験会の企画・運営などの経験多数。 自身の所属するJSCA（日本セーフティカヌーイング協会）ベーシック検定員。自然ガイド。 小豆島でのシーカヤックガイドの経験や素潜りを通じて海での活動にも精通する。 | | | | |

| 科目名 | 雪上スポーツ | | 授業形態 | 対面のみ | 授業の方法 | 実習 |
|---|---|---|---------|------|-------|------|
| 担当教員 | 服部正秋/小野彰太/外部講師 | | 実務授業の有無 | ○ | | |
| 対象学科 | 野外教育・アウトドア/自然ガイド・環境保全/山岳プロ学科/アウトドアプロインストラクター | | 対象学年 | 1 | 開講時期 | 後期 |
| 必修・選択 | 必修 | 単位数 | | | 時間数 | 32時間 |
| 授業概要、目的、授業の進め方 | 冬期野外活動の代表的な種目であるアルペンスキー、クロスカンリースキーの技術の向上、知識の獲得を通じて、積雪期における野外活動への理解を深めることを目的とする。 | | | | | |
| 学習目標 (到達目標) | アルペン：各自の技術レベルに応じて設定。 ①ブルーボーゲンでスキー場の初級者コースを滑走できる。 ②パラルターンでスキー場の中級者コースを滑走できる。 ③スキー場の上級者コースで安定した滑走ができる。 | | | | | |
| テキスト・教材・参考図書・その他資料 | 事前に「受講調査票」を配布。その他資料を適宜配布。 | | | | | |
| 回数 | 授業項目、内容 | 学習方法・準備学習・備考 | | | | |
| 1 | <ul style="list-style-type: none"> ■i-nac出発（8:30までに公用車に積み込み、乗込み） ■班別に講習 ■スキー場出発（16:00までに公用車に積み込み、乗込み） ■i-nac着・事務連絡後解散 | <ul style="list-style-type: none"> ■実施場所：杉ノ原スキー場 ■活動班：習得レベル別（下記4段階）に分けられた班ごとに活動 ア. はじめて。 イ. ブルーボーゲンでスキー場の初級者コースを滑走できる。 ウ. パラルターンでスキー場の中級者コースを滑走できる。 エ. スキー場の上級者コースで安定した滑走ができる。 ■装備：□スキー □ブーツ □スキーポール □雪上活動用ウェア（厚手）□帽子（ニット） □グローブ □ゴーグル □昼食 □日焼け止め等その他必要なもの ■チケット手配に関して *スキー場での3日間は、杉ノ原スキー場のシーズンパスを持っている学生（もしくはスーパーシーズン券等）を持っていて使用できる学生はそれを使ってください。 *また19歳の学生は杉ノ原スキー場が平日リフト無料になります。（平成11年4月2日～平成12年4月1日生まれ） ※対象者は、19歳になる前でも利用可能 登録がありますので、該当する学生で利用したい学生は、実習前までに必ず登録しておいてください。 https://majibu.jp/yukimaji19/pc/about/ *シーズンパスを持っていない学生、または20歳リフト券無料に該当しない学生に関しては、1日券×3日分を当日、自分でスキー場で購入してもらいます。 | | | | |
| 2 | <ul style="list-style-type: none"> ■i-nac出発（8:30までに公用車に積み込み、乗込み） ■班別に講習 ■スキー場出発（16:00までに公用車に積み込み、乗込み） ■i-nac着・事務連絡後解散 | <ul style="list-style-type: none"> ■実施場所：黒姫XCスキー場 ■クロスカンリースキーの道具はレンタルをこちらで手配します。 ■装備：□ウインドブレーカーもしくはレインウェアのような薄手の上下ウェア（防寒対策として厚手のウェアも念のため持ってきてください） □着替え（Tシャツ、インナー等 天気が良ければかなり汗をかきます） □サングラス（ゴーグルだとくもりやすい） □手袋（薄手の物、登山用グローブ、毛糸の手袋、作業用グローブなど） □日焼け止め □昼食 □飲み物等 | | | | |
| 3 | <ul style="list-style-type: none"> ■i-nac出発（8:30までに公用車に積み込み、乗込み） ■班別に講習 ■スキー場出発（16:00までに公用車に積み込み、乗込み） ■i-nac着・事務連絡後解散 | <ul style="list-style-type: none"> ■実施場所：黒姫XCスキー場 ■クロスカンリースキーの道具はレンタルをこちらで手配します。 ■装備：□ウインドブレーカーもしくはレインウェアのような薄手の上下ウェア（防寒対策として厚手のウェアも念のため持ってきてください） □着替え（Tシャツ、インナー等 天気が良ければかなり汗をかきます） □サングラス（ゴーグルだとくもりやすい） □手袋（薄手の物、登山用グローブ、毛糸の手袋、作業用グローブなど） □日焼け止め □昼食 □飲み物等 | | | | |
| 4 | <ul style="list-style-type: none"> ■i-nac出発（9:00までに公用車に積み込み、乗込み） ■クロスカンリースキーにて講習 ■i-nacにて解散 | <ul style="list-style-type: none"> ■実施場所：黒姫XCスキー場 ■クロスカンリースキーの道具はレンタルをこちらで手配します。 ■装備：□ウインドブレーカーもしくはレインウェアのような薄手の上下ウェア（防寒対策として厚手のウェアも念のため持ってきてください） □着替え（Tシャツ、インナー等 天気が良ければかなり汗をかきます） □サングラス（ゴーグルだとくもりやすい） □手袋（薄手の物、登山用グローブ、毛糸の手袋、作業用グローブなど） □日焼け止め □昼食 □飲み物等 | | | | |
| 評価方法・成績評価基準 | | 履修上の注意 | | | | |
| 出席率、授業姿勢、実習習得レベル等、総合的に評価を行います。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。 | | <ul style="list-style-type: none"> ■受講生は別紙、「受講調査票」を提出してください。 ■アルペンスキーではゲレンデでのスキー基本的技術を学ぶので、可能な限りファットスキー、テレマーク以外のスキーを持ってきてください。 ■装備の準備について不安がある学生は早めに相談してください。安全管理上、装備が不十分の学生の受講は認めません。 ■特に初心者は、ヘルメットの着用を強く推奨します。 ■スキー、レンタルは手配しません。必要な学生は内田スポーツへの相談をお勧めします（年間レンタルもかなり安くしてもらっています） | | | | |
| 実務経験教員の経歴 | <ul style="list-style-type: none"> ■服部正明：クロスカンリースキー競技歴30年、国体出場9回 ■小野彰太：スキー歴10年、指導歴3年以上 ■外部講師：スキースクール講師 | | | | | |

②

国際自然環境アウトドア専門学校 シラバス

| 科目名 | キャンプ実習 | 授業形態 | 対面のみ | 授業の方法 | 実習 |
|---|--|---|---|-------|------|
| 担当教員 | 小野 彰太、吉田 理史 | | 実務授業の有無 | ○ | |
| 対象学科 | 野外教育・アウトドア・キャンプビジネス 自然ガイド・環境保全/自然環境保全学科/山岳プロ/アウトドアプロインストラクター | 対象学年 | 1 | 開講時期 | 前期 |
| 必修・選択 | 必修 | 単位数 | | 時間数 | 32時間 |
| 授業概要、目的、授業の進め方 | 2泊3日のキャンプ活動を通して、以下の目標および技術習得を達成しi-nacにおける野外活動の基礎を構築することを目的とする。なお、本実習は日本キャンプ協会公認キャンプインストラクター養成講習会を兼ねて実施される。 | | | | |
| 学習目標 (到達目標) | <input checked="" type="checkbox"/> バックパッキングに必要な技術の習得 <input checked="" type="checkbox"/> コミュニケーション、リーダーシップの重要性を認識する <input checked="" type="checkbox"/> 現時点での自分の力量・課題を明確にする | | | | |
| テキスト・教材・参考 図書・その他資料 | 山と溪谷社「ヤマケイ・テクニカルブック登山技術全書②トレッキング縦走登山」 | | | | |
| 回数 | 授業項目、内容 | | 学習方法・準備学習・備考 | | |
| 1 | オリエンテーション、アイズブレイク、目標設定、装備・食材準備、登山計画作成 | | 講義、グループワーク（個人作業⇒グループ共有⇒全体共有）、分担作業（食材準備、装備準備） | | |
| 2 | 実習地移動、キャンプ場オリエンテーション、テント・タープ設営、野外炊事①、ナビゲーション講習（整地、磁北線、山座同定、ストレートハイク） | | 講義、実地演習、振り返り・グループワーク | | |
| 3 | 野外炊飯②、バックパッキングオリエンテーション（キャンプ場～スキー場周辺～戸隠奥社周辺）、野外炊飯③、キャンプファイヤー | | 実地演習、グループワーク、振り返り | | |
| 4 | 野外炊飯④、撤収（テント・タープ、食器、清掃）、実習総括 | | 実地演習、ふりかえり、レポート作成 | | |
| 5 | | | | | |
| 6 | | | | | |
| 評価方法・成績評価基準 | | | 履修上の注意 | | |
| 出席率、授業姿勢、振り返りシートによる自己評価、実習中の発表内容、実習後レポートから総合的に評価を行います。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。 | | | 技術習得については、振り返りシートにより自己評価及び、班内のメンバーによる他者評価を行い多角的に評価を行います。 ソフト（メタ）スキルについては、活動毎に振り返りの時間を設けグループ単位で分析、一般化のプロセスを重視します。 実習の事前、事後で自らの課題を内省させ、発表させます。実習後には、レポート作成を課し、自らの課題と力量を記録として残します。 | | |
| 実務経験教員の経歴 | | 小野：民間で、4年間自然体験活動の企画運営と野外教育活動の提供に従事。また、国内アウトドアメーカーでアウトドア用品の販売に2年間従事。 吉田：民間で、12年間自然体験活動の企画運営と野外教育活動の提供に従事。（公社）日本キャンプ協会指導者養成委員。 | | | |

②

国際自然環境アウトドア専門学校 シラバス

| 科目名 | 雪上キャンプ実習 | 授業形態 | 対面のみ | 授業の方法 | 実習 |
|---|--|--|---------|-------|------|
| 担当教員 | 小野彰太/外部講師 | | 実務授業の有無 | ○ | |
| 対象学科 | 野外教育・アウトドア/キャンプビジネス 自然ガイド・環境保全/自然環境保全学科/山岳プロ/アウトドアプロインストラクター | 対象学年 | 1 | 開講時期 | 後期 |
| 必修・選択 | 必修 | 単位数 | | 時間数 | 32時間 |
| 授業概要、目的、授業の進め方 | <p>雪上での諸活動（スノーシューハイク、キャンプ生活等）を通して、冬期活動の基本的なノウハウや安全管理について学ぶ。</p> <p>■活動内容 ①雪上で2泊のキャンプ実践（ベースキャンプの設営および雪上での野外炊飯などを行う） ②スノーシューでの行動、安全・確実なルートファインディングを行う。③クインジー（雪洞）を作って</p> | | | | |
| 学習目標（到達目標） | <p>①雪上でのテントをつかった幕営を、安全に行うことができる ②安全かつ居住性のあるクインジー（雪洞）を設営することができる ③地形図を見ながら、尾根と沢を区別し、確実なルートファインディングができる ④雪上キャンプでの炊事を、仲間と協力しながら効率良く行える</p> | | | | |
| テキスト・教材・参考図書・その他資料 | 2万5千地図を配布。その他配布資料。 | | | | |
| 回数 | 授業項目、内容 | 学習方法・準備学習・備考 | | | |
| 1 | ■講義（306室）■装備チェック■雪洞づくり講習（4Xコースor自然の家）■共同装備等振り分け・食料買い出し | 班別にグループワーク（雪上活動のリスクについてディスカッション、装備チェック、装備振り分け等） | | | |
| 2 | ■inac集合、出発■ベースキャンプ着&テン場設営開始■夕食準備 ■夕食&ミーティング | 班毎に準備ができ次第、出発。その後も班別に活動（引率教員は、各班に1名）。 | | | |
| 3 | ■起床・朝食準備■朝食■テン場発■宿泊地点着 雪洞づくり ■夕食準備■夕食&ミーティング | 班毎に準備ができ次第、出発。その後も班別に活動（引率教員は、各班に1名）。 | | | |
| 4 | ■起床・朝食準備■朝食■テン場発■inac着 後片付け■ふりかえり■解散 | 班毎に準備ができ次第、出発。その後も班別に活動（引率教員は、各班に1名）。学校に戻ってからの振り返りは、全員そろってから開始します。 | | | |
| 5 | | | | | |
| 6 | | | | | |
| 7 | | | | | |
| 8 | | | | | |
| 評価方法・成績評価基準 | | 履修上の注意 | | | |
| <p>出席率、授業姿勢、実習目標4点の自己評価結果、事後レポート等、総合的に評価を行います。</p> <p>成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。</p> | | <p>■事後レポート課題：実習目標4項目それぞれについて点数（各項目25点満点）をつけ考察する。実習での反省をふまえて、自分自身に足りなかったことや今後身につけるべきことを考えながら、実習の感想も含めたレポートを作成すること。Wordを使用、A4用紙2ページ以上（文字数は1,600文字以上）</p> | | | |
| 実務経験教員の経歴 | <p>主担当（田辺慎一）：大学山岳部5年間（北海道日高山脈が主な活動地域、冬期縦走経験豊富）。</p> | | | | |

②

国際自然環境アウトドア専門学校 シラバス

| 科目名 | ヨガⅠ | 授業形態 | 対面・遠隔併用 | 授業の方法 | 実技 |
|---|---|------|----------------|-------|------|
| 担当教員 | 大田絵里 | | 実務授業の有無 | ○ | |
| 対象学科 | 野外教育・アウトドアスポーツ/ アウトドアプロインストラクター | 対象学年 | 2/1 | 開講時期 | 通年 |
| 必修・選択 | 必修 | 単位数 | | 時間数 | 32時間 |
| 授業概要、目的、 授業の進め方 | 日常生活の中で行いやすいアウトドアスポーツの代表でもあるヨガを学ぶことで、自身の健康への意識を高めるとともに、競技力を高めるための精神力、身体力を養う。また日本のアウトドアスポーツや健康問題への現状をヨガを通して理解していく。 | | | | |
| 学習目標 (到達目標) | ヨガを通してアウトドアフィットネスの理解と同時に自身の健康維持・増進を図る | | | | |
| テキスト・教材・参考 図書・その他資料 | | | | | |
| 回数 | 授業項目、内容 | | 学習方法・準備学習・備考 | | |
| 1 | ヨガ講義と実践 (ヨガとは、ヨガの歴史など) | | ヨガマット・筆記用具・飲み物 | | |
| 2 | ヨガ講義と実践 (現代社会におけるニーズなど) | | ヨガマット・筆記用具・飲み物 | | |
| 3 | ヨガ講義と実践 (現代社会におけるニーズなど) | | ヨガマット・筆記用具・飲み物 | | |
| 4 | ヨガ実践 | | ヨガマット・筆記用具・飲み物 | | |
| 5 | ヨガ実践 | | | | |
| 6 | ヨガ実践 | | ヨガマット・筆記用具・飲み物 | | |
| 7 | ヨガ実践 | | ヨガマット・筆記用具・飲み物 | | |
| 8 | ヨガ実践 | | ヨガマット・筆記用具・飲み物 | | |
| 9 | ヨガ実践 | | ヨガマット・筆記用具・飲み物 | | |
| 10 | ヨガ実践 | | ヨガマット・筆記用具・飲み物 | | |
| 11 | ヨガ実践 | | ヨガマット・筆記用具・飲み物 | | |
| 12 | ヨガ実践 | | ヨガマット・筆記用具・飲み物 | | |
| 13 | ヨガ実践 | | ヨガマット・筆記用具・飲み物 | | |
| 14 | ヨガ実践 | | ヨガマット・筆記用具・飲み物 | | |
| 15 | ヨガ実践 | | ヨガマット・筆記用具・飲み物 | | |
| 16 | 振り返り・まとめ | | ヨガマット・筆記用具・飲み物 | | |
| 評価方法・成績評価基準 | | | 履修上の注意 | | |
| 出席率と授業態度により評価を行う。 出席率80%未満の場合、原則として成績評価は行わない。 学習意欲40%、成果40%、出席20% 成績評価基準は、優(80点以上)・良(70点以上)・可(60点以上)・不可(59点以下)とする。 | | | 筆記用具、ヨガマット、 | | |
| 実務経験教員の経歴 | 各自治体、スポーツクラブ等での講義・実務経歴10年以上 | | | | |

②

国際自然環境アウトドア専門学校 シラバス

| 科目名 | アウトドアインストラクター演習Ⅰ | 授業形態 | 対面・遠隔併用 | 授業の方法 | 演習 |
|---|---|------|---|-------|------|
| 担当教員 | 田辺慎一/服部正秋 | | 実務授業の有無 | ○ | |
| 対象学科 | 野外教育・アウトドアスポーツ/アウトドアプロインストラクター | 対象学年 | 2 | 開講時期 | 通年 |
| 必修・選択 | 選択 | 単位数 | | 時間数 | 80時間 |
| 授業概要、目的、授業の進め方 | 様々なアウトドアスポーツを経験しながら、身体づくり、魅力、リスク、安全管理を深めます。またアウトドアスポーツの魅力を伝えるための技術、フィールドでの指導法の実際を学びます。 日常生活から取り入れやすいノルディックウォーキングの指導法や、トレイルランニングレースのスタッフとして大会運営 NHMとMURA18の大会運営を行う事で、アウトドアスポーツの指導方法、イベント運営方法も学んでいきます。 | | | | |
| 学習目標 (到達目標) | ノルディックフィットネスのインストラクション方法を学ぶ。また大会の企画運営のノウハウを学ぶ | | | | |
| テキスト・教材・参考 図書・その他資料 | 特になし | | | | |
| 回数 | 授業項目、内容 | | 学習方法・準備学習・備考 | | |
| 1 | ガイダンス：MURA18概要、ノルディックハーフマラソン | | 授業での持ち物、時間等の連絡はその都度事前に行いますので確認をお願いします。また天候により内容・場所を適時検討することもあります。授業は移動時間等もありますので、集合時間、帰校時間がその都度違いますのでよろしくをお願いします。 | | |
| 2 | げんき妙高NW教室ガイダンス&ノルディックハーフマラソン準備 | | | | |
| 3 | げんき妙高NW教室下見 &ノルディックハーフマラソン準備 | | | | |
| 4 | げんき妙高NW教室① &ノルディックハーフマラソン準備 | | | | |
| 5 | げんき妙高NW教室② &ノルディックハーフマラソン準備 | | | | |
| 6 | ノルディックハーフマラソン in Myoko 2018 大会前日 準備 | | | | |
| 7 | ノルディックハーフマラソン in Myoko 2018 大会当日 運営 | | | | |
| 8 | げんき妙高NW教室③ &ノルディックハーフマラソン片づけ | | | | |
| 9 | げんき妙高NW教室④&MURA18準備 | | | | |
| 10 | げんき妙高NW教室⑤&MURA18準備 | | | | |
| 11 | げんき妙高NW教室⑥ | | | | |
| 12 | げんき妙高NW教室⑦ &MURA18準備 | | | | |
| 13 | げんき妙高NW教室⑧ &MURA19準備 | | | | |
| 14 | MURA18準備 | | | | |
| 15 | MURA18大会前日 準備 | | | | |
| 16 | MURA18大会当日 運営 | | | | |
| 評価方法・成績評価基準 | | | 履修上の注意 | | |
| 出席率と授業態度により評価を行う。 出席率80%未満の場合、原則として成績評価は行わない。 学習意欲40%、成果40%、出席20% 成績評価基準は、優(80点以上)・良(70点以上)・可(60点以上)・不可(59点以下)とする。 | | | ・雨が降らなければ屋外での実技を行います。動きやすい服装、シューズで出席してください。また、雨天時は室内での実技を行うため室内シューズが必要になります。 | | |
| 実務経験教員の経歴 | 田辺慎一実務経歴10年、服部正秋実務経歴7年 | | | | |

②

国際自然環境アウトドア専門学校 シラバス

| 科目名 | アウトドアスポーツ指導演習 | 授業形態 | 対面のみ | 授業の方法 | 演習 |
|---|---|------|---|-------|------|
| 担当教員 | 服部正秋/田辺慎一 | | 実務授業の有無 | ○ | |
| 対象学科 | 野外教育・アウトドアスポーツ/ アウトドアプロインストラクター | 対象学年 | 3/2 | 開講時期 | 通年 |
| 必修・選択 | 必修 | 単位数 | | 時間数 | 96時間 |
| 授業概要、目的、 授業の進め方 | アウトドアスポーツ全般を体験し幅広い分野の野外活動を実践できるようになる。1年次に経験したアウトドアアクティビティの技術・知識を更に深める。アウトドアスポーツが野外活動の中でのニーズが高まっている事、またそれらの安全管理やインストラクションができるようになることを目標とする。また本校の2つのアウトドアスポーツイベントの中心スタッフとして企画運営に携わりアウトドアイベントのマネジメント能力を高める | | | | |
| 学習目標 (到達目標) | 各アウトドアスポーツの安全管理、インストラクション方法を身につける | | | | |
| テキスト・教材・参考 図書・その他資料 | 特になし | | | | |
| 回数 | 授業項目、内容 | | 学習方法・準備学習・備考 | | |
| 1 | ノルディックハーフマラソン進捗状況確認、準備 | | 各アウトドアスポーツに関しては、その都度、事前に持ち物、時間等の連絡をします。また天候により内容・場所を適時検討することもあります。授業は移動時間等もありますので、集合時間、帰校時間がその都度違いますので事前に確認をすること。 | | |
| 2 | ノルディックハーフマラソン準備、NW教室下見 | | | | |
| 3 | ノルディックハーフマラソン準備 | | | | |
| 4 | ノルディックウォーキング | | | | |
| 5 | ナビゲーション基礎 (笹ヶ峰) | | | | |
| 6 | MTB | | | | |
| 7 | カヤック | | | | |
| 8 | SUP | | | | |
| 9 | 山岳ロードマラソン入門 (MURA18コース) | | | | |
| 10 | ロングトレイル入門 (信越トレイル) | | | | |
| 11 | ナビゲーション基礎 (笹ヶ峰) | | | | |
| 12 | トレイルランニング | | | | |
| 13 | オリエンテーリング | | | | |
| 14 | MTB | | | | |
| 15 | 積雪期登山入門 (スノーシューハイク) | | | | |
| 16 | クロスカントリースキー | | | | |
| | | | | | |
| 評価方法・成績評価基準 | | | 履修上の注意 | | |
| 出席率と授業態度により評価を行う。 出席率80%未満の場合、原則として成績評価は行わない。 学習意欲40%、成果40%、出席20% 成績評価基準は、優(80点以上)・良(70点以上)・可(60点以上)・不可(59点以下)とする。 | | | | | |
| 実務経験教員の経歴 | 田辺慎一実務経歴10年、服部正秋実務経歴7年 | | | | |

②

国際自然環境アウトドア専門学校 シラバス

| 科目名 | アウトドアイベント実践 | 授業形態 | 対面のみ | 授業の方法 | 実習 |
|---|--|--|---------|-------|------|
| 担当教員 | 小野彰太 | | 実務授業の有無 | ○ | |
| 対象学科 | アウトドアプロインストラクター | 対象学年 | 1 | 開講時期 | 前期 |
| 必修・選択 | 必修 | 単位数 | | 時間数 | 32時間 |
| 授業概要、目的、授業の進め方 | 授業、実習で学んだ知識、経験を一般のお客様を対象に提供します。実践を通して、指導、サービス、マネジメントの実践知を得、インストラクター、ガイドとしての仕事を体験的に理解することを目的とします。 | | | | |
| 学習目標 (到達目標) | <ul style="list-style-type: none"> ・初心者を対象としたアウトドア活動の指導を実施する。 ・体験を通して、指導者として必要な知識、技術、課題を理解、認識する。 | | | | |
| テキスト・教材・参考図書・その他資料 | 適宜配布 | | | | |
| 回数 | 授業項目、内容 | 学習方法・準備学習・備考 | | | |
| 1 | 実習オリエンテーション、現地見 | 講義、体験学習、グループワーク | | | |
| 2 | スタッフトレーニング、イベント準備（物品準備、食材準備など） | 体験学習、グループワーク | | | |
| 3 | アウトドアイベント実践①@松山水辺ふれあい公園 パドルスポーツ体験イベント | 体験学習、グループワーク | | | |
| 4 | アウトドアイベント実践②@松山水辺ふれあい公園 パドルスポーツ体験イベント | 体験学習、グループワーク | | | |
| 5 | | | | | |
| 6 | | | | | |
| 評価方法・成績評価基準 | | 履修上の注意 | | | |
| 出席率と授業態度及び指導実践の様子により総合的に評価を行う。 出席率80%未満の場合、原則として成績評価は行わない。 成績評価基準は、優(80点以上)・良(70点以上)・可(60点以上)・不可(59点以下)とする。 | | イベントの進行は、担当教員が担当する。学生は、局所的に参加者への指導実践を行いながら、体験的にイベントの運営ノウハウを学ぶ。 | | | |
| 実務経験教員の経歴 | <p>小野：野尻湖でのカヤック、SUPガイド。初心者向けのカヤック体験会の企画・運営などの経験多数。</p> <p>自身の所属するJSCA（日本セーフティカヌーイング協会）ベーシック検定員。自然ガイド。小豆島でのシーカヤックガイドの経験や素潜りを通じて海での活動にも精通する。</p> | | | | |

| 科目名 | アウトドアスポーツ実習（フィットネス） | 授業形態 | 対面のみ | 授業の方法 | 実習 |
|--|--|--|---------|-------|------|
| 担当教員 | 丸山さき／服部正秋 | | 実務授業の有無 | ○ | |
| 対象学科 | 山岳プロ／自然ガイド環境保全／ 野外教育・アウトドアスポーツ/ アウトドアプロインストラクター | 対象学年 | 2/1 | 開講時期 | 後期 |
| 必修・選択 | 必修 | 単位数 | | 時間数 | 32時間 |
| 授業概要、目的、 授業の進め方 | <p>①日常生活に取り入れやすいノルディックウォーキングやヨガの知識や実際に学び、自身の健康増進のフィットネスとして理解を深める。</p> <p>②アウトドアスポーツの中で、人気が高まっているトレイルランニングの知識や技術を学ぶ事で、これからのアウトドアスポーツ業界の動向を深めると共に、実際にレースに参加しトレイルランニングの魅力を学ぶ。</p> <p>③現代社会の中で健康志向が高まっている理由とその重要性を理解し、アウトドアスポーツから現代の健康問題について考える。</p> | | | | |
| 学習目標 (到達目標) | 昨今の現代社会における「ライトアウトドアスポーツ」のニーズの理解（レポート、実践） | | | | |
| テキスト・教材・参考 図書・その他資料 | 斑尾トレイルランニングマップ、トレイルランニングDVD、日本ノルディックフィットネス協会アクティビティリーダーテキスト、ノルディックポール | | | | |
| 回数 | 授業項目、内容 | 学習方法・準備学習・備考 | | | |
| 1 | 【1日目】トレイルランニング概要 | <ul style="list-style-type: none"> ・筆記用具 ・短パンもしくはスパッツ（七分・ロングなんでも良い） ・TシャツもしくはロングT・ランニングでも可（化繊） ・日よけ（帽子・サンバイザー・サングラスなど） ・トレイルランニングシューズ（もしくはランニングシューズ） ・トレイル専用小型リュックサック（もしくは小型のサックできるだけ小さいもの） ・くま鈴（ある人は持ってきてください） ・行動食（小型ザックに入れていきます） ・水分（トレラン中に補給するもの。終了後に補給するもの2つあったほうが良い） ・防寒着（薄手のウインドブレーカー、レインジャケットなど） ・着替え等（多少の雨でも行いますし、汗をかくと思います。終わった後の着替え） ・虫除け（なくてもいいですが、あったほうがいい） | | | |
| 2 | ①実際にトレイルを走ってみよう!! (トレイルで実践的なテクニックを学ぶ) | | | | |
| 3 | (26kmコースを下見します) | | | | |
| 4 | ②How toトレイルランニング (身体の使い方/上り下りの走り方/トレーニング方法/レースでの心構え) | | | | |
| 5 | 【2日目】ヨガ | | | | |
| 6 | ヨガ実践とヨガの動向【市場】について 昼食 | | | | |
| 7 | 現代社会での健康問題について。 | | | | |
| 8 | 【3日目】ノルディックウォーキング概要 (ノルディックウォーキングAL養成講座) | | | | |
| 9 | ①ノルディックウォーキングの知識と実際 (ヘルスレベル・フィットネスレベル・スポーツレベル) | | | | |
| 10 | ②ノルディックフィットネスの実際 (ウォーミングアップ・クールダウン・筋トレ・コーディネーション) | | | | |
| 11 | 【4日目】・レースデビュー!! | | | | |
| 12 | トレイルランニングレースに出場しよう!! | | | | |
| 13 | 斑尾トレイルランニングレースに参加し、レース、イベントの雰囲気を実際に肌で感じながら思いっきり楽しもう！また自身の体力の限界を知ることで今後の身体づくりの必要性を知ろう！ | | | | |
| 14 | | | | | |
| 評価方法・成績評価基準 | | 履修上の注意 | | | |
| <p>出席率と授業態度及び提出書類（レポート）により評価を行う。 出席率80%未満の場合、原則として成績評価は行わない。</p> <p>学習意欲40%、成果物40%、出席20%</p> <p>成績評価基準は、優(80点以上)・良(70点以上)・可(60点以上)・不可(59点以下)とする。</p> | | | | | |
| 実務経験教員の経歴 | 各自治体、フィットネスジム、スポーツクラブ等での講義経歴10年、当授業実務経歴7年 | | | | |

②

国際自然環境アウトドア専門学校 シラバス

| 科目名 | アウトドアスポーツ実習（パドル） | 授業形態 | 対面のみ | 授業の方法 | 実習 |
|---|---|---|---------|-------|-----------|
| 担当教員 | 石川 義治／小野彰太 | | 実務授業の有無 | ○ | |
| 対象学科 | 野外教育アウトドアスポーツ学科 / アウトドアプロインストラクター | 対象学年 | 2/1、2 | 開講時期 | 前期 |
| 必修・選択 | 必修 | 単位数 | | 時間数 | 32時間/32時間 |
| 授業概要、目的、授業の進め方 | 本実習はカヤック、SUP（希望制）、カヌー（希望制）に関する基礎的な技術の習得ならびに指導資格の取得を通じて、自然体験活動の指導者としての資質を高めることを目的として実施する。なお、本実習は（一社）日本セーフティカヌーイング協会（以下JSCA）が認定するJSCAベーシックインストラクター・リバーカヤック/SUP（希望制）、カヌー（希望制）の検定講習会を兼ねて実施される。 | | | | |
| 学習目標（到達目標） | JSCAベーシックインストラクター／リバーカヤック、SUP、カヌー 合格 | | | | |
| テキスト・教材・参考図書・その他資料 | テキスト：JSCA公認テキスト、SRPテキスト 関連資料：JSCA 検定課目ガイドライン | | | | |
| 回数 | 授業項目、内容 | 学習方法・準備学習・備考 | | | |
| 1 | オリエンテーション、静水講習①：基礎パドリング、静水講習②：基礎パドリング、講義①【総論】、筆記試験① | 実地演習、講義、筆記試験 | | | |
| 2 | 静水講習③：基礎パドリング、安全技術研修：セルフレスキュー、ポート（牽引、TX）、講義②【安全】、筆記試験②、検定ガイダンス | 実地演習、講義、筆記試験 | | | |
| 3 | 実技検定、1）漕艇技術、2）指導技術：模擬講習（陸上）、3）安全技術（陸上、講義③【カヌーの基礎知識】、筆記試験③、川下りがイグ | 実技試験、ロールプレイ、講義、筆記試験 | | | |
| 4 | 川下り実践（長野市大岡特産センター～大原間）、流水の仕組み（本流、エディ）、川下りの方法、セルフレスキュー実践、総括、結果発表 | 実地演習、振り返り | | | |
| 5 | SUP（カヌー）実技検定、1）漕艇技術、2）指導技術：模擬講習（陸上）、3）安全技術（陸上、水上【SUP（カヌー）の基礎知識】 | 実技試験、ロールプレイ、講義 | | | |
| 6 | | | | | |
| 評価方法・成績評価基準 | | 履修上の注意 | | | |
| 出席率、授業姿勢、振り返り時の発表内容、試験結果から総合的に評価を行います。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。 | | 資格認定には、筆記試験の合格（75点以上）、実技試験の合格（5段階評価AAA、AA、A、B、CでA以上）が必要となる。 実技においては、積極的な練習と反復が必要となる。 講義においては、積極的に受講し取り組むこと。 | | | |
| 実務経験教員の経歴 | 石川：ウクディパドリングスクール代表。1999年よりカヤック／カヌーインストラクターとして20年従事。 JSCA顧問、JSCAインストラクター・トレーナー、ACA（アメリカカヌー協会）ホワイトウォーター・インストラクター（カヤック） 小野：野尻湖でのカヤック、SUPガイド。初心者向けのカヤック体験会の企画・運営などの経験多数。 自身の所属するJSCA（日本セーフティカヌーイング協会）ベーシック検定員。自然ガイド。 | | | | |

②

国際自然環境アウトドア専門学校 シラバス

| | | | | | |
|--|---|--|---------|-------|------|
| 科目名 | アウトドアビジネス実習Ⅱ | 授業形態 | 対面のみ | 授業の方法 | 実習 |
| 担当教員 | 黒野崇／服部正秋 | | 実務授業の有無 | ○ | |
| 対象学科 | 野外教育・アウトドアスポーツ/ アウトドアプロインストラクター | 対象学年 | 2 | 開講時期 | 後期 |
| 必修・選択 | 必修 | 単位数 | | 時間数 | 32時間 |
| 授業概要、目的、 授業の進め方 | アウトドアビジネスの実際について学び、自ら事業企画書を作成することを通して、「アウトドア業界で働く」「アウトドアを仕事にする」ことについての理解を深め、意欲を高める。 | | | | |
| 学習目標 (到達目標) | 昨今の現代社会におけるアウトドア業界のニーズの理解（レポート、講義、見学） | | | | |
| テキスト・教材・参考 図書・その他資料 | 日本レジャー白書（10年間分データ）、国内外人口統計、訪日観光客統計データ、各企業資料、各企業ホームページ、外部講師資料 | | | | |
| 回数 | 授業項目、内容 | 学習方法・準備学習・備考 | | | |
| 1 | 【1日目】 * 「ASICS ランニングステーション」見学 | 【持ち物】 * 筆記用具、PC、着替え等（宿泊が伴います） * 1日目の昼食、夕食 2日目の朝食、昼食は各自に任せます。 【事前課題・事後レポート】 ①現時点での自分の進路や将来的な職業に関する展望を明確にする。 ②ケーススタディで学ぶ各社について、Webサイトを中心に以下の観点で情報収集する。 ・各社の事業は何を目的として行われているのか。 ・各社の商品、サービスはどのようなものであり、顧客に対してどのような価値を提供するか。 ・他の企業にはない各社の特徴や強みは何か。 ③実習後には上記①～②、および本実習での学習内容をもとにしたレポート課題を課します。 【その他】 野外活動に関する知識や技術の習得を目的とする授業ではありません。授業の目的をふまえ、得られるものが多くなるよう取り組んでください。 5W1H | | | |
| 2 | * 「BLUE多摩川」 | | | | |
| 3 | * 講演（黒野代表） | | | | |
| 4 | 株式会社BEACH TOWNのアウトドアフィットネス事業について | | | | |
| 5 | 【2日目】 * 「コミュニティパーク八潮」見学 | | | | |
| 6 | 【3日目】 * アウトドア業界をとりまく日本の社会情勢について | | | | |
| 7 | （人口統計、日本レジャー白書、訪日観光客統計など） | | | | |
| 8 | 事業企画書の作成（アイデアを具現化するために） | | | | |
| 9 | * 仕事に関する価値観、興味関心の明確化 | | | | |
| 10 | 【4日目】 * 事業企画書の作成 | | | | |
| 11 | * 事業企画プレゼンテーション | | | | |
| 12 | | | | | |
| 13 | | | | | |
| 評価方法・成績評価基準 | | 履修上の注意 | | | |
| 出席率と授業態度及び提出書類（レポート）により評価を行う。 出席率80%未満の場合、原則として成績評価は行わない。 学習意欲40%、成果物40%、出席20% 成績評価基準は、優(80点以上)・良(70点以上)・可(60点以上)・不可(59点以下)とする。 | | | | | |
| 実務経験教員の経歴 | 黒野崇（株）BEACH TOWN代表取締役 各自治体、フィットネスジム、スポーツクラブ等での講義経歴10年以上 | | | | |

②

国際自然環境アウトドア専門学校 シラバス

| 科目名 | ウィルダネスファーストエイド | 授業形態 | 対面のみ | 授業の方法 | 実習 |
|---|---|------|---|-------|------|
| 担当教員 | 非常勤講師 | | 実務授業の有無 | ○ | |
| 対象学科 | 野外教育・アウトドア/自然ガイド・環境保全/山岳プロ学科/アウトドアプロインストラクター | 対象学年 | 2 | 開講時期 | 後期 |
| 必修・選択 | 必修 | 単位数 | | 時間数 | 50時間 |
| 授業概要、目的、授業の進め方 | 緊急医療体系へと引き継ぐまでに時間のかかる状況での野外救急法を学び、さまざまな身体機能の問題や障害から引き起こされるトラブルや、野外における環境やストレスからくる怪我や体調不良に対処する応急知識・技術を習得する。なお、本実習はウィルダネス メディカル アソシエイツ ジャパン(WMAJ)が認定するWAFAアドバンスレベルの認定講習会を兼ねて実施される。 | | | | |
| 学習目標 (到達目標) | Wilderness Medical Associates International (WMAI) 認定 Wilderness Advanced First Aid(WAFA)およびILCOR準拠Adult CPR 合格 | | | | |
| テキスト・教材・参考図書・その他資料 | WARFA (テキスト)、オレンジフィールドガイド(撥水加工)、クラスノート、SOAPノート(処置記録ノート)、教材はすべて日本語化済み | | | | |
| 回数 | 授業項目、内容 | | 学習方法・準備学習・備考 | | |
| 1 | オリエンテーション、医療と法、一般原則(生理学と病理学)、一般原則(ウィルダネス医療と救助医療) | | 講義、演習、復習(課題) | | |
| 2 | 傷病者評価システム(PAS)、傷病者の保護、呼吸器系、循環器系、神経系、一次救命処置(BLS)、脊椎損傷 | | 講義、演習、ロールプレイ、復習(課題) | | |
| 3 | 筋骨格系、創と熱傷、体温調節、アレルギーとアナフィラキシー、毒物/毒物注入/疾病媒介動物 | | 講義、演習、ロールプレイ、復習(課題) | | |
| 4 | 水に関する損傷、落雷による損傷、野外での病気 | | 講義、演習、ロールプレイ | | |
| 5 | 筆記テスト、搬送方法、シナリオトレーニング、総括、結果発表 | | | | |
| 6 | | | | | |
| 評価方法・成績評価基準 | | | 履修上の注意 | | |
| 出席率、授業姿勢、筆記試験(マークシート)、実地演習の内容、講習認定の可否など総合的に評価。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。 | | | 講習は40時間の履修が必須となります。実習中、遅刻、早退、欠席には留意し自己管理を行うこと。 実習ガイダンスで告知される事前学習、準備物を全て確認し取り組むこと。知識が不足している場合、実習に参加できない可能性もあります。また、実習中課された復習課題にも積極的に取り組むこと。課題対応を含めた50時間履修となります。 | | |
| 実務経験教員の経歴 | WMAIインストラクターは、志願者の前提条件として①医療従事者または豊富な現場救護経験、②ガイドレベルのアウトドアスキルやアウトドア経験、③教育者としての経験が求められています。 加えて1年間の専門的なトレーニングを積んだのち、7日間のWALS医師レベルコースの受講を含むインストラクタートレーニングコースを修了し、WMAIカリキュラムディレクターのDr.David Johnsonから直接審査・認定を受けたプロフェッショナルメンバーです。 | | | | |

②

国際自然環境アウトドア専門学校 シラバス

| 科目名 | バックカントリー実習 | 授業形態 | 対面のみ | 授業の方法 | 実習 |
|--|--|------|--------------------------------------|-------|------|
| 担当教員 | 中野豊和/吉田美栄 | | 実務授業の有無 | ○ | |
| 対象学科 | アウトドアプロインストラクター | 対象学年 | 2 | 開講時期 | 後期 |
| 必修・選択 | 選択 | 単位数 | | 時間数 | 32時間 |
| 授業概要、目的、授業の進め方 | 冬期の代表的な野外活動であるスキー・スノーボード・スノーシューを用いたバックカントリーでの活動を題材として、雪崩リスクマネジメントを中心とした、冬期の野外活動に必要なスキルを習得し、野外活動に従事する者としての資質の向上を図る。 | | | | |
| 学習目標 (到達目標) | <p>① 積雪期におけるルートナビゲーション及びプランニングを実施し、自然ガイドステージIIの職能範囲内の活動エリアにおいて、自分たちで安全に活動することができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・プランニング・登山計画書の作成・気象判断・行動判断・ナビゲーション <p>② 積雪期のバックカントリーエリアで安全に活動するための基礎的なスキルを習得する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・雪崩地形の認識、積雪の観察と積雪安定性評価の基礎 ・グループマネジメント・セルフレスキュー等について学ぶ <p>③ バックカントリーツアーを体験する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・妙高周辺のフィールドにおける学生主導のバックカントリーツアーを実施する | | | | |
| テキスト・教材・参考図書・その他資料 | 東京新聞 増強改訂雪崩リスク軽減の手引き NPO法人日本雪崩ネットワークウェブサイト http://nadare.jp/ | | | | |
| 回数 | 授業項目、内容 | | 学習方法・準備学習・備考 | | |
| 1 | (AM) 座学 ・バックカントリー滑走のための基礎知識 ・セルフレスキュー (ビーコン) | | パワーポイント資料を使用した学習および実習(フィールドでのビーコン検索) | | |
| 2 | (AM) 座学 ・雪崩地形での行動判断 ・積雪安定性の評価 等 | | パワーポイント資料を使用した学習および翌日からのツアーのプランニング | | |
| 3 | バックカントリーツアー 坪岳 (ナビゲーション) | | 雪崩のリスクマネジメントを行いながら、バックカントリーを滑走する。 | | |
| 4 | バックカントリーツアー シャルマン火打スキー場～放山 | | 雪崩のリスクマネジメントを行いながら、バックカントリーを滑走する。 | | |
| 評価方法・成績評価基準 | | | 履修上の注意 | | |
| 出席率と授業態度により評価を行う。 出席率80%未満の場合、原則として成績評価は行わない。 成績評価基準は、優(80点以上)・良(70点以上)・可(60点以上)・不可(59点以下)とする。 | | | | | |
| 実務経験教員の経歴 | 中野豊和：有限会社 スリーウェイナビゲーション (1997～2006年)、インフィールド代表 (個人事業、2006年～現在) ガイド歴20年以上 | | | | |

②

国際自然環境アウトドア専門学校 シラバス

| 科目名 | インターンシップ実習（冬季）Ⅲ | 授業形態 | 対面のみ | 授業の方法 | 実習 |
|--|---|--|---------|-------|--------|
| 担当教員 | 小野彰太/受入企業・団体 | | 実務授業の有無 | ○ | |
| 対象学科 | アウトドアプロインストラクター学科 | 対象学年 | 2 | 開講時期 | 通年 |
| 必修・選択 | 選択 | 単位数 | | 時間数 | 32時間以上 |
| 授業概要、目的、授業の進め方 | 「インターンシップ実習」では、自らの専攻、将来のキャリアに関連する就業体験を行います。目的は次の4点です。①学習意欲の向上と学習目的の明確化、②高い職業意識を持った職業人の養成、③専門分野での実務能力の向上、④アウトドア業界における人的ネットワークの構築 | | | | |
| 学習目標 (到達目標) | ①実際のビジネス現場での体験を通じて、自分の適性を確認できる。 ②アウトドア業界における就業体験を通し、業界理解を深め、進路選択に役立てることができる。 ③社会人としての挨拶、マナーの重要性を理解できる | | | | |
| テキスト・教材・参考図書・その他資料 | ■インターンシップ実習の手引き、■学生調書 ■志望動機書 ■その他配布資料 | | | | |
| 回数 | 授業項目、内容 | 学習方法・準備学習・備考 | | | |
| 1 | インターンシップガイダンス、受入先の希望調査 | 希望調査シートに第3希望まで記入し、担当教員に提出。 | | | |
| 2 | 受入先の決定、学生調書、インターンシップ動機書の作成・提出 | 学生調書（excel）、動機書（word）をメールで担当教員に提出、教員が校閲後返却。完成後、受入先に提出。 | | | |
| 3 | 受入先への連絡（挨拶、訪問日時・持ち物等の問合せなど） | 学生自身が受入担当者に電話連絡 | | | |
| 4 | 受入先における研修（7月下旬から9月中旬の期間で実働15日以上） | 研修期間中、毎日、インターンシップ日誌に記入し、受入先担当者に提出。 | | | |
| 5 | 研修後、インターンシップ報告書を作成。 | 報告書（powerpoint）を担当教員に提出。後期オリエンテーションの学科別活動で発表。 | | | |
| 6 | | | | | |
| 7 | | | | | |
| 8 | | | | | |
| 評価方法・成績評価基準 | | 履修上の注意 | | | |
| 出席率、インターンシップ日誌の内容（業務遂行レベル）、インターンシップ報告書の内容、報告会での発表、受入先担当者による成績評価等、総合的に評価を行います。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。 | | <ul style="list-style-type: none"> ■事前に必ず傷害保険およびインターンシップ活動賠償責任保険に加入すること。 ■研修期間：実働15日間以上を確保すること ■研修中、毎日日誌を作成し、受入先担当者に提出、確認印をもらうこと。インターンシップ終了後、全日誌を教員に提出 ■事後報告書（powerpoint）の提出 ■受入先では人に接する態度、言葉遣いなどの基本的なマナーや、服装・身だしなみ等に気を配ること。 ■無断欠席や遅刻は厳禁である。 | | | |
| 実務経験教員の経歴 | インターンシップ受入先企業・団体の担当スタッフによる。 | | | | |

②

国際自然環境アウトドア専門学校 シラバス

| 科目名 | 多分野インターンシップ | | 授業形態 | 対面のみ | 授業の方法 | 実習 |
|---|---|------|---|------|-------|----|
| 担当教員 | 小野彰太/受入企業・団体 | | 実務授業の有無 | ○ | | |
| 対象学科 | アウトドアプロインストラクター学科 | 対象学年 | 2 | 開講時期 | 通年 | |
| 必修・選択 | 必修 | 単位数 | | 時間数 | 96時間 | |
| 授業概要、目的、授業の進め方 | 現在、多くのアウトドアインストラクター、ガイドは指導、ガイディングのみで生計を立てているとは言い難い。これらの業務を主軸とし、サービス業、小売業、宿泊業、第一次産業に従事しながら生活をしている方が多い。この授業では、別業種の実務経験、または自ら極めたい専門性に取り組むことで、自身の可能性の探索と深化を行う機会とする。 | | | | | |
| 学習目標 (到達目標) | <ul style="list-style-type: none"> 自身の仕事の可能性としての幅を広げられる。(異業種の経験の探索) 自身の仕事の専門性をより高められる。(極めたい専門性の深化) | | | | | |
| テキスト・教材・参考図書・その他資料 | 適宜配布 | | | | | |
| 回数 | 授業項目、内容 | | 学習方法・準備学習・備考 | | | |
| 1 | インターンシップガイダンス、受入先の希望調査 | | 希望調査シートに第3希望まで記入し、担当教員に提出。 | | | |
| 2 | 受入先の決定、学生調書、インターンシップ動機書の作成・提出 | | 学生調書(excel)、動機書(word)をメールで担当教員に提出、教員が校閲後返却。完成後、受入先に提出。 | | | |
| 3 | 受入先への連絡(挨拶、訪問日時・持ち物等の問合せなど) | | 学生自身が受入担当者に電話連絡 | | | |
| 4 | 受入先における研修 | | 研修期間中、毎日、インターンシップ日誌に記入し、受入先担当者に提出。 | | | |
| 5 | 受入先における研修 | | 研修期間中、毎日、インターンシップ日誌に記入し、受入先担当者に提出。 | | | |
| 6 | 受入先における研修 | | 研修期間中、毎日、インターンシップ日誌に記入し、受入先担当者に提出。 | | | |
| 7 | 受入先における研修 | | 研修期間中、毎日、インターンシップ日誌に記入し、受入先担当者に提出。 | | | |
| 8 | 中間報告会。学びの共有① | | グループワーク | | | |
| 9 | 受入先における研修 | | 研修期間中、毎日、インターンシップ日誌に記入し、受入先担当者に提出。 | | | |
| 10 | 受入先における研修 | | 研修期間中、毎日、インターンシップ日誌に記入し、受入先担当者に提出。 | | | |
| 11 | 受入先における研修 | | 研修期間中、毎日、インターンシップ日誌に記入し、受入先担当者に提出。 | | | |
| 12 | 受入先における研修 | | 研修期間中、毎日、インターンシップ日誌に記入し、受入先担当者に提出。 | | | |
| 13 | 受入先における研修 | | 研修期間中、毎日、インターンシップ日誌に記入し、受入先担当者に提出。 | | | |
| 14 | 受入先における研修 | | 研修期間中、毎日、インターンシップ日誌に記入し、受入先担当者に提出。 | | | |
| 15 | 受入先における研修 | | 研修期間中、毎日、インターンシップ日誌に記入し、受入先担当者に提出。 | | | |
| 16 | 報告会。学びの共有② | | グループワーク | | | |
| 評価方法・成績評価基準 | | | 履修上の注意 | | | |
| 出席率とインターンシップ日誌、受け入れ先評価、報告時発表など総合的に評価を行う。 出席率80%未満の場合、原則として成績評価は行わない。 成績評価基準は、優(80点以上)・良(70点以上)・可(60点以上)・不可(59点以下)とする。 | | | <ul style="list-style-type: none"> ■事前に必ず傷害保険およびインターンシップ活動賠償責任保険に加入すること。 ■研修期間：実働15日間以上を確保すること ■研修中、毎日日誌を作成し、受入先担当者に提出、確認印をもらうこと。インターンシップ終了後、全日誌を教員に提出 ■事後報告書(powerpoint)の提出 ■受入先では人に接する態度、言葉遣いなどの基本的なマナーや、服装・身だしなみに気を配ること。 ■無断欠席や遅刻は厳禁である。 | | | |
| 実務経験教員の経歴 | インターンシップ受入先企業・団体の担当スタッフによる。 | | | | | |

②

国際自然環境アウトドア専門学校 シラバス

| 科目名 | 専門科目トレーニングII | 授業形態 | 対面のみ | 授業の方法 | 実技 |
|---|--|------|---|-------|------|
| 担当教員 | 小野 彰太 | | 実務授業の有無 | ○ | |
| 対象学科 | アウトドアプロインストラクター 学科 | 対象学年 | 2 | 開講時期 | 通年 |
| 必修・選択 | 必修 | 単位数 | | 時間数 | 32時間 |
| 授業概要、目的、 授業の進め方 | <p>本学科では、通年を通してアウトドアのインストラクター、ガイドを目指していく。その為には、それぞれの求める専門性について、自らが打ち込み学んでいく姿勢が不可欠である。</p> <p>本授業では、自らの専門性に対して深めたい、①対象を設定、②現状を把握、③目標を定め、④計画的に実行していく過程で、今後自らの専門性を自分で切り開いていく基礎を身につけることを目的とする。</p> | | | | |
| 学習目標 (到達目標) | <ul style="list-style-type: none"> ・自ら深めたい対象を設定し、主観的、客観的な情報から現状を理解する。 ・上達する為の目標を定め、効果的なトレーニングを自ら考案し、実行できる。 | | | | |
| テキスト・教材・参考 図書・その他資料 | 適宜、資料情報があれば提供。 | | | | |
| 回数 | 授業項目、内容 | | 学習方法・準備学習・備考 | | |
| 1 | 深めたい専門性の対象を検討、設定 | | 担当：小野 講義、体験学習、グループワーク | | |
| 2 | 自らの専門性について情報收拾。主観的、客観的に評価 | | 担当：小野 体験学習、グループワーク | | |
| 3 | トレーニング案の立案 | | 担当：小野 体験学習、グループワーク | | |
| 4 | トレーニングの実践 | | 担当：小野 体験学習、グループワーク、 | | |
| 5 | トレーニングの実践、中間評価 | | 担当：小野 体験学習 | | |
| 6 | トレーニングの実践 | | 担当：小野 体験学習 | | |
| 7 | トレーニングの実践 | | 担当：小野 体験学習、グループワーク、 | | |
| 8 | まとめ、自らトレーニングをすること | | 担当：小野 体験学習、グループワーク、 | | |
| 評価方法・成績評価基準 | | | 履修上の注意 | | |
| <p>出席率、授業態度、主体性、及び各種提出物から総合的に評価します。対話への参加姿勢も評価対象となります。</p> <p>成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。</p> | | | <p>自らのカリキュラムを自身で決めることが大切な授業です。実現可能な範囲に留まらず、しっかりと「成長」できるように取り組みましょう。</p> | | |
| 実務経験教員の経歴 | | | <p>小野：野尻湖でのカヤック、SUPガイド。初心者向けのカヤック体験会の企画・運営などの経験多数。</p> <p>自身の所属するJSCA（日本セーフティカヌーイング協会）ベーシック検定員。自然ガイド。</p> | | |

| 科目名 | アウトドアフィットネスⅡ | | | 授業の方法 | 演習 |
|--|---|------|--|-------|------|
| 担当教員 | 小野 彰太、服部 正秋 | | 実務授業の有無 | ○ | |
| 対象学科 | アウトドアプロインストラクター 学科 | 対象学年 | 2 | 開講時期 | 通年 |
| 必修・選択 | 選択 | 単位数 | | 時間数 | 32時間 |
| 授業概要、目的、 授業の進め方 | 近年、人々の健康志向は向上傾向にあり、その中でも健康寿命の延長は人生100年時代を充実して生きるためにも重要な位置づけとなる。フィットネス業界では、コロナ禍もあいまってアウトドアでのプログラム実施が広がりを見せている。この授業では、通年でアウトドアフィットネスを実践することで ・本質的なアウトドアフィットネスの理解 ・自身の運動習慣、健康づくりの実践 を目的とする。授業は、クライミング、ランニング、ウォーキング、サイクリング、パドルスポーツ（予定）と種目選択制とし、安全管理上二人以上のコミュニティを作って実施する。 | | | | |
| 学習目標 (到達目標) | ・アウトドアフィットネスについて理解し説明ができるようになる ・天候、季節に応じて種目を選択し、無理なくアウトドアスポーツを続けられるようになる | | | | |
| テキスト・教材・参考 図書・その他資料 | テキスト：山と溪谷社「スポーツクライミング教本」、他適宜資料配布 | | | | |
| 回数 | 授業項目、内容 | | 学習方法・準備学習・備考 | | |
| 1 | ガイダンス、ボルダリング種目について、フィットネス実践 | | 講義、経験学習、アプリ活用 | | |
| 2 | ノルディックウォーキング種目について、フィットネス 実践 | | 講義、経験学習、アプリ活用 | | |
| 3 | サイクリング種目について、フィットネス 実践 | | 講義、経験学習、アプリ活用 | | |
| 4 | パドルスポーツ種目について（予定）、フィットネス 実践 | | 講義、経験学習、アプリ活用 | | |
| 5 | フィットネス 実践 | | 経験学習、アプリ活用 | | |
| 6 | フィットネス 実践 | | 経験学習、アプリ活用 | | |
| 7 | フィットネス 実践 | | 経験学習、アプリ活用 | | |
| 8 | 中間ミーティング(意見交換、トリップについて)、フィットネス 実践 | | グループワーク、経験学習、アプリ活用 | | |
| 9 | トレイルランニング種目について、フィットネス実践 | | 講義、経験学習、アプリ活用 | | |
| 10 | フィットネス 実践 | | 経験学習、アプリ活用 | | |
| 11 | フィットネス 実践 | | 経験学習、アプリ活用 | | |
| 12 | フィットネス 実践 | | 経験学習、アプリ活用 | | |
| 13 | フィットネス 実践 | | 経験学習、アプリ活用 | | |
| 14 | フィットネス 実践 | | 経験学習、アプリ活用 | | |
| 15 | スノースポーツ種目について、フィットネス実践 | | 講義、経験学習、アプリ活用 | | |
| 16 | 終了ミーティング（まとめ） | | グループワーク、経験学習 | | |
| 評価方法・成績評価基準 | | | 履修上の注意 | | |
| 出席率、授業態度、主体性、及びログ（記録）やレポート課題から総合的に評価します。特に継続する姿勢に重点を置いていますので、出席に関する比重は高くなります。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。 | | | ・スマートフォンのアプリを活用する機会があります。常時、スマートフォンは携帯をしてください。 ・アプリ、ノート、教員が用意したフォーマットいずれでも構いません。ログをとり、自身の健康を客観的に見られるように努めてください。 ・仲間と自然と一緒に、継続を心がけましょう。 | | |
| 実務経験教員の経歴 | 小野：野尻湖でのカヤック、SUPガイド。初心者向けのカヤック体験会の企画・運営などの経験多数。 自身の所属するJSCA（日本セーフティカヌーイング協会）ベーシック検定員。自然ガイド。 服部：自身の所属するJNFA（日本ノルディックフィットネス協会）ナショナルトレーナー。数多くのインストラクターの排出。自身もKOKUTO iiyama homeを通じてアウトドアスポーツの普及に努める。 | | | | |

②

国際自然環境アウトドア専門学校 シラバス

| 科目名 | プログラム企画運営Ⅱ | 授業形態 | 対面のみ | 授業の方法 | 演習 |
|---|--|------|---|-------|----|
| 担当教員 | 服部正秋 | | 実務授業の有無 | × | |
| 対象学科 | アウトドアプロインストラクター /クライミングインストラクター | 対象学年 | 2/3 | 開講時期 | 後期 |
| 必修・選択 | 必修 | 単位数 | | 時間数 | 16 |
| 授業概要、目的、 授業の進め方 | アウトドアスポーツの体験教室の企画運営を通して、マネジメント能力を身につける。同時に企画運営のノウハウを学ぶ事でより現場に近い職業観を身につける | | | | |
| 学習目標 (到達目標) | アウトドアスポーツの体験教室の企画運営を行う。(年間2回) | | | | |
| テキスト・教材・参 考図書・その他資料 | 特になし | | | | |
| 回数 | 授業項目、内容 | | 学習方法・準備学習・備考 | | |
| 1 | オリエンテーション | | パソコン、筆記用具、クライミング用具一式 | | |
| 2 | 第1回目アウトドア教室 役割分担決定 コンセプト | | パソコン、筆記用具、クライミング用具一式 | | |
| 3 | 第1回目アウトドア教室企画 | | パソコン、筆記用具、クライミング用具一式 | | |
| 4 | 第1回目アウトドア教室企画 | | パソコン、筆記用具、クライミング用具一式 | | |
| 5 | 第1回目アウトドア教室リハーサル | | パソコン、筆記用具、クライミング用具一式 | | |
| 6 | 第1回目アウトドア教室リハーサル | | パソコン、筆記用具、クライミング用具一式 | | |
| 7 | 第1回目アウトドア教室 実施 | | パソコン、筆記用具、クライミング用具一式 | | |
| 7 | まとめ、振り返り、メンテナンス | | パソコン、筆記用具、クライミング用具一式 | | |
| 8 | 第2回目アウトドア教室リハーサル | | パソコン、筆記用具、クライミング用具一式 | | |
| 9 | 第2回目アウトドア教室 実施 | | パソコン、筆記用具、クライミング用具一式 | | |
| | | | | | |
| 評価方法・成績評価基準 | | | 履修上の注意 | | |
| 出席率と授業態度により評価を行う。 出席率80%未満の場合、原則として成績評価は行わない。 学習意欲40%、成果40%、出席20% 成績評価基準は、優(80点以上)・良(70点以上)・可(60点以上)・不可(59点以下)とする。 | | | ・雨が降らなければ屋外でのトレーニングを行います。動きやすい服装、シューズで出席してください。また雨天時は室内でのトレーニングを行うため室内シューズが必要になります。ケガ等でできない場合は前日までに申し出るようにお願いします。 | | |
| 実務経験教員の経歴 | 各自治体、フィットネスジム、スポーツクラブ等での実務経歴10年、当授業実務経歴7年 | | | | |

②

国際自然環境アウトドア専門学校 シラバス

| 科目名 | ビジネススタイルゼミ | 授業形態 | 対面・遠隔併用 | 授業の方法 | 演習 |
|---|---|---|---|-------|------|
| 担当教員 | 小野 彰太／非常勤講師 | | 実務授業の有無 | ○ | |
| 対象学科 | アウトドアプロインストラクター 学科 | 対象学年 | 2 | 開講時期 | 前期 |
| 必修・選択 | 選択 | 単位数 | | 時間数 | 24時間 |
| 授業概要、目的、 授業の進め方 | <p>現在、アウトドアを取り巻くビジネスは多様化が進む。 ガイド業だけではなく、宿泊・サービス業。小売、コミュニティ作り。コンサルタントやイベント運営など多岐に渡る。 本授業では、実際のアウトドアを利用したビジネスのケーススタディからアウトドア事業の多様性や可能性について理解する。</p> | | | | |
| 学習目標 (到達目標) | <ul style="list-style-type: none"> ・既存のアウトドア関連ビジネスについて、どんな形態が存在するのか。また、その実態を知る。 ・自分の専門性を活かしたビジネスモデル（事業計画）を考案する。 | | | | |
| テキスト・教材・参考 図書・その他資料 | 適宜提供 | | | | |
| 回数 | 授業項目、内容 | | 学習方法・準備学習・備考 | | |
| 1 | 授業ガイダンス、アウトドア事業とは、多様なアウトドアビジネス | | 担当：小野 講義、体験学習、グループワーク | | |
| 2 | ケーススタディ①「地域資源の活用とターゲット」 | | 担当：非常勤講師 体験学習、グループワーク | | |
| 3 | ケーススタディ②「採算の立つビジネスモデル」 | | 担当：非常勤講師 体験学習、グループワーク | | |
| 4 | 事業計画を立てる① 情報收拾、収支計算、資源活用など | | 担当：小野 講義、個人ワーク | | |
| 5 | 事業計画を立てる② プレゼン資料の作成など | | 担当：小野 講義、個人ワーク | | |
| 6 | 事業計画発表① | | 担当：小野 体験学習、グループワーク | | |
| 7 | 事業計画発表② | | 担当：小野 体験学習、グループワーク | | |
| 8 | まとめ アウトドア業界の現状と未来 | | 担当：小野 体験学習、グループワーク | | |
| 評価方法・成績評価基準 | | | 履修上の注意 | | |
| <p>出席率、授業態度、主体性、及び各種提出物から総合的に評価します。対話への参加姿勢も評価対象となります。</p> <p>成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。</p> | | | <p>ビジネスとしてアウトドアを理解するためには、社会の現状を知る必要があります。日頃からニュースや新聞など、社会の現状をキャッチすることに努めて下さい。</p> | | |
| 実務経験教員の経歴 | | <p>小野：野尻湖でのカヤック、SUPガイド。初心者向けのカヤック体験会の企画・運営などの経験多数。</p> <p>自身の所属するJSCA（日本セーフティカヌーイング協会）ベーシック検定員。自然ガイド。</p> | | | |

②

国際自然環境アウトドア専門学校 シラバス

| 科目名 | アウトドアツアー演習 | 授業形態 | 対面のみ | 授業の方法 | 実習 |
|--|---|------|---|-------|------|
| 担当教員 | 小野 彰太、非常勤講師 | | 実務授業の有無 | ○ | |
| 対象学科 | アウトドアプロインストラクター学科 | 対象学年 | 2 | 開講時期 | 後期 |
| 必修・選択 | 必修 | 単位数 | | 時間数 | 40時間 |
| 授業概要、目的、授業の進め方 | 今まで培ってきた自らの専門性を活かして、遠征計画（トリッププラン）を立てて実行する。遠征の目的としては、自身のスキル、知識の向上。知見の広がり。ガイディングスキルの向上。を満たすこと。遠征場所については、各々の専門性を活かせる場所としその中で、現実的な移動が叶うエリアとする。 | | | | |
| 学習目標（到達目標） | <input checked="" type="checkbox"/> 自らの専門分野のスキル向上、知識の向上をする。 <input checked="" type="checkbox"/> 安全管理を含め、実現可能な計画とする。 <input checked="" type="checkbox"/> 移動、宿泊、食事などマネジメントも含め学生が主体となって計画する。 | | | | |
| テキスト・教材・参考図書・その他資料 | 適宜資料として配布 | | | | |
| 回数 | 授業項目、内容 | | 学習方法・準備学習・備考 | | |
| 1 | オリエンテーション、目標設定、装備・食材準備、遠征計画作成 | | 講義、グループワーク（個人作業⇒全体共有）、分担作業（食材準備、装備準備） | | |
| 2 | 実習地移動、アウトドアツアー演習① | | 体験学習、実地演習、振り返り | | |
| 3 | 実習地移動、アウトドアツアー演習② | | 体験学習、実地演習、振り返り | | |
| 4 | 実習地移動、アウトドアツアー演習③ | | 体験学習、実地演習、振り返り | | |
| 5 | アウトドアツアー演習④、移動、撤収 | | 体験学習、実地演習、振り返り | | |
| 6 | | | | | |
| 評価方法・成績評価基準 | | | 履修上の注意 | | |
| 出席率、授業姿勢、実習中の発表内容、実習後レポートから総合的に評価を行います。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。 | | | それぞれが高めてきた専門性を試す場となります。 お互いが培ってきたスキルを通して、学生間での経験値の交換。そして指導者としての幅を広げましょう。 その為には、日々の研鑽が不可欠となります。 また、遠征に際して候補となる活動フィールドを日頃から情報収集しておきましょう。 | | |
| 実務経験教員の経歴 | 小野：野尻湖でのカヤック、SUPガイド。初心者向けのカヤック体験会の企画・運営などの経験多数。 自身の所属するJSCA（日本セーフティカヌーイング協会）ベーシック検定員。自然ガイド。 小豆島でのシーカヤックガイドの経験や素潜りを通じて海での活動にも精通する。 | | | | |

②

国際自然環境アウトドア専門学校 シラバス

| 科目名 | 雪上スポーツ指導実習 | 授業形態 | 対面のみ | 授業の方法 | 実習 |
|---|---|------|--|-------|------|
| 担当教員 | 服部正秋/小野彰太/外部講師 | | 実務授業の有無 | ○ | |
| 対象学科 | 野外教育・アウトドアスポーツ | 対象学年 | 3 | 開講時期 | 後期 |
| 必修・選択 | 必修 | 単位数 | | 時間数 | 32時間 |
| 授業概要、目的、授業の進め方 | 冬期野外活動の代表的な種目であるアルペンスキー、クロスカントリースキークの指導力の向上を図る。 | | | | |
| 学習目標 (到達目標) | 各自の技術レベルに応じて、滑走技術の指導ができる。 | | | | |
| テキスト・教材・参考図書・その他資料 | 事前に「受講調査票」を配布。その他資料を適宜配布。 | | | | |
| 回数 | 授業項目、内容 | | 学習方法・準備学習・備考 | | |
| 1 | <ul style="list-style-type: none"> ■i-nac出発（8:30までに公用車に積み込み、乗込み） ■班別に講習 ■スキー場出発（16:00までに公用車に積み込み、乗込み） ■i-nac着・事務連絡後解散 | | <ul style="list-style-type: none"> ■実施場所：杉ノ原スキー場 ■活動班：習得レベル別（下記4段階）に分けられた班（1年生）に対し、自分の技術レベルにあった班の指導を行う ア. はじめて。 イ. ブルークガーデンでスキー場の初級者コースを滑走できる。 ウ. パラレルターンでスキー場の中級者コースを滑走できる。 エ. スキー場の上級者コースで安定した滑走ができる。 ■装備：<input type="checkbox"/>スキー <input type="checkbox"/>ブーツ <input type="checkbox"/>スキーポール <input type="checkbox"/>雪上活動用ウェア（厚手）<input type="checkbox"/>帽子（ニット） <input type="checkbox"/>グローブ <input type="checkbox"/>ゴーグル <input type="checkbox"/>昼食 <input type="checkbox"/>日焼け止め等その必要なもの ■チケット手配に関して | | |
| 2 | <ul style="list-style-type: none"> ■i-nac出発（8:30までに公用車に積み込み、乗込み） ■班別に講習 ■スキー場出発（16:00までに公用車に積み込み、乗込み） ■i-nac着・事務連絡後解散 | | <ul style="list-style-type: none"> *スキー場での3日間は、杉ノ原スキー場のシーズンパスを持っている学生（もしくはスーパーシーズン券等持っていて使用できる学生）はそれを使ってください。 *シーズンパスを持っていない学生は1日券×3日分を当日、自分でスキー場で購入してもらいます。 | | |
| 3 | <ul style="list-style-type: none"> ■i-nac出発（8:30までに公用車に積み込み、乗込み） ■班別に講習 ■スキー場出発（16:00までに公用車に積み込み、乗込み） ■i-nac着・事務連絡後解散 | | | | |
| 4 | <ul style="list-style-type: none"> ■i-nac出発（9:00までに公用車に積み込み、乗込み） ■クロスカントリーコースにて講習 ■i-nacにて解散 | | <ul style="list-style-type: none"> ■実施場所：黒姫XCスキー場 ■クロスカントリースキークの道具はレンタルをこちらで手配します。 ■装備：<input type="checkbox"/>ウインドブレーカーもしくはレインウェアのような薄手の上下ウェア（防寒対策として厚手のウェアも念のため持ってきてください） <input type="checkbox"/>着替え（Tシャツ、インナー等 天気が良ければかなり汗をかきます） <input type="checkbox"/>サングラス（ゴーグルだとくもります） <input type="checkbox"/>手袋（薄手の物、登山用グローブ、毛糸の手袋、作業用グローブなど） <input type="checkbox"/>日焼け止め <input type="checkbox"/>昼食 <input type="checkbox"/>飲み物等 | | |
| 評価方法・成績評価基準 | | | 履修上の注意 | | |
| 出席率、授業姿勢、実技習得レベル等、総合的に評価を行います。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。 | | | | | |
| 実務経験教員の経歴 | <ul style="list-style-type: none"> ■服部正明：クロスカントリースキーク競技歴30年、国体出場9回 ■田辺慎一：スキー歴30年以上、指導歴10年以上 ■外部講師：スキースクール講師 | | | | |

②

国際自然環境アウトドア専門学校 シラバス

| | | | | | |
|--|--|------|--|-------|------|
| 科目名 | 卒業研究 | 授業形態 | 対面・遠隔併用 | 授業の方法 | 演習 |
| 担当教員 | 小野彰太 | | 実務授業の有無 | × | |
| 対象学科 | アウトドアプロインストラクター | 対象学年 | 2 | 開講時期 | 後期 |
| 必修・選択 | 必修 | 単位数 | | 時間数 | 16時間 |
| 授業概要、目的、授業の進め方 | 自分が興味を持って調べ、まとめ、人に伝える（発表する）ことは、自分をさらけ出すことでもあります。社会に出ると、アイデア立案、企画作成、業務運営等の様々な場面で、意見を求められたり、考えをまとめ伝えるなど、「自分」を相手にさらけ出す（伝える、表現する）機会が数多くやってきます。【目的】卒業研究では、自ら気づき、調べ、まとめたものを最終的に卒業論文や発表会でのプレゼンとして完成させる。 | | | | |
| 学習目標 (到達目標) | 卒業研究を進める過程を通し、自分が暮らす現実社会や仕事として携わる業界に関する問題・課題を見つけ出し、現状を調査し、解決策・改善策・将来ビジョンを提示する基本的なスキルを習得する。 | | | | |
| テキスト・教材・参考 図書・その他資料 | 資料を適宜配布 | | | | |
| 回数 | 授業項目、内容 | | 学習方法・準備学習・備考 | | |
| 1 | オリエンテーション（卒業研究の概要）、テーマの決定 | | ■ノートPC持参 | | |
| 2 | テーマの決定、研究計画の作成・発表、調査・制作活動1 (教員が個別に対応する) | | ■ノートPC持参 | | |
| 3 | 調査・制作活動2（教員が個別に対応する） | | 各自の研究テーマ、方法により、個別に調査・研究活動 | | |
| 4 | 調査・制作活動3（教員が個別に対応する） | | 各自の研究テーマ、方法により、個別に調査・研究活動 | | |
| 5 | 調査・制作活動4（教員が個別に対応する） | | 各自の研究テーマ、方法により、個別に調査・研究活動 | | |
| 6 | 発表用資料（pptファイル）の作成・準備 | | | | |
| 7 | 発表練習（発表時間：発表12分＋質疑応答3分/人） | | ■ノートPC持参 | | |
| 8 | 発表練習（発表時間：発表12分＋質疑応答3分/人） | | ■ノートPC持参 | | |
| 評価方法・成績評価基準 | | | 履修上の注意 | | |
| 出席率、卒業研究への取組み、卒業研究の内容・完成度および発表会でのプレゼン能力等で総合的に評価 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。 | | | ■卒業研究発表会で発表します ■卒研は、「自分の力」でやり遂げることがもっとも大切です。もちろん、わからないことはどんどん聞いて下さい。アドバイスを得ながら作業を進めることも、期限内に卒論（仕事）を完成させる「自分の力」の重要な要素だからです。時間的、労力的、精神的にきつい時があるかと思いますが、皆に見せたい論文、皆に聞かせたい発表を作り上げて下さい。 | | |
| 実務経験教員の経歴 | | | | | |

②

国際自然環境アウトドア専門学校 シラバス

| 科目名 | インターンシップ実習（冬季）Ⅰ | 授業形態 | 対面のみ | 授業の方法 | 実習 |
|--|---|--|---------|-------|--------|
| 担当教員 | 小野彰太/受入企業・団体 | | 実務授業の有無 | ○ | |
| 対象学科 | アウトドアプロインストラクター学科 | 対象学年 | 1 | 開講時期 | 通年 |
| 必修・選択 | 必修 | 単位数 | | 時間数 | 56時間以上 |
| 授業概要、目的、授業の進め方 | 「インターンシップ実習」では、自らの専攻、将来のキャリアに関連する就業体験を行います。目的は次の4点です。①学習意欲の向上と学習目的の明確化、②高い職業意識を持った職業人の養成、③専門分野での実務能力の向上、④アウトドア業界における人的ネットワークの構築 | | | | |
| 学習目標 (到達目標) | ①実際のビジネス現場での体験を通じて、自分の適性を確認できる。 ②アウトドア業界における就業体験を通し、業界理解を深め、進路選択に役立てることができる。 ③社会人としての挨拶、マナーの重要性を理解できる | | | | |
| テキスト・教材・参考図書・その他資料 | ■インターンシップ実習の手引き、■学生調書 ■志望動機書 ■その他配布資料 | | | | |
| 回数 | 授業項目、内容 | 学習方法・準備学習・備考 | | | |
| 1 | インターンシップガイダンス、受入先の希望調査 | 希望調査シートに第3希望まで記入し、担当教員に提出。 | | | |
| 2 | 受入先の決定、学生調書、インターンシップ動機書の作成・提出 | 学生調書（excel）、動機書（word）をメールで担当教員に提出、教員が校閲後返却。完成後、受入先に提出。 | | | |
| 3 | 受入先への連絡（挨拶、訪問日時・持ち物等の問合せなど） | 学生自身が受入担当者に電話連絡 | | | |
| 4 | 受入先における研修（12月から3月中旬の期間で実働7日以上） | 研修期間中、毎日、インターンシップ日誌に記入し、受入先担当者に提出。 | | | |
| 5 | 研修後、インターンシップ報告書を作成。 | 報告書（powerpoint）を担当教員に提出。後期オリエンテーションの学科別活動で発表。 | | | |
| 6 | | | | | |
| 7 | | | | | |
| 8 | | | | | |
| 評価方法・成績評価基準 | | 履修上の注意 | | | |
| 出席率、インターンシップ日誌の内容（業務遂行レベル）、インターンシップ報告書の内容、報告会での発表、受入先担当者による成績評価等、総合的に評価を行います。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。 | | <ul style="list-style-type: none"> ■事前に必ず傷害保険およびインターンシップ活動賠償責任保険に加入すること。 ■研修期間：実働15日間以上を確保すること ■研修中、毎日日誌を作成し、受入先担当者に提出、確認印をもらうこと。インターンシップ終了後、全日誌を教員に提出 ■事後報告書（powerpoint）の提出 ■受入先では人に接する態度、言葉遣いなどの基本的なマナーや、服装・身だしなみ等に気を配ること。 ■無断欠席や遅刻は厳禁である。 | | | |
| 実務経験教員の経歴 | インターンシップ受入先企業・団体の担当スタッフによる。 | | | | |

②

国際自然環境アウトドア専門学校 シラバス

| 科目名 | インターンシップ実習（冬季）Ⅱ | 授業形態 | 対面のみ | 授業の方法 | 実習 |
|--|---|--|---------|-------|--------|
| 担当教員 | 小野彰太/受入企業・団体 | | 実務授業の有無 | ○ | |
| 対象学科 | アウトドアプロインストラクター学科 | 対象学年 | 2 | 開講時期 | 通年 |
| 必修・選択 | 必修 | 単位数 | | 時間数 | 56時間以上 |
| 授業概要、目的、授業の進め方 | 「インターンシップ実習」では、自らの専攻、将来のキャリアに関連する就業体験を行います。目的は次の4点です。①学習意欲の向上と学習目的の明確化、②高い職業意識を持った職業人の養成、③専門分野での実務能力の向上、④アウトドア業界における人的ネットワークの構築 | | | | |
| 学習目標 (到達目標) | ①実際のビジネス現場での体験を通じて、自分の適性を確認できる。 ②アウトドア業界における就業体験を通し、業界理解を深め、進路選択に役立てることができる。 ③社会人としての挨拶、マナーの重要性を理解できる | | | | |
| テキスト・教材・参考図書・その他資料 | ■インターンシップ実習の手引き、■学生調書 ■志望動機書 ■その他配布資料 | | | | |
| 回数 | 授業項目、内容 | 学習方法・準備学習・備考 | | | |
| 1 | インターンシップガイダンス、受入先の希望調査 | 希望調査シートに第3希望まで記入し、担当教員に提出。 | | | |
| 2 | 受入先の決定、学生調書、インターンシップ動機書の作成・提出 | 学生調書（excel）、動機書（word）をメールで担当教員に提出、教員が校閲後返却。完成後、受入先に提出。 | | | |
| 3 | 受入先への連絡（挨拶、訪問日時・持ち物等の問合せなど） | 学生自身が受入担当者に電話連絡 | | | |
| 4 | 受入先における研修（12月から3月中旬の期間で実働7日以上） | 研修期間中、毎日、インターンシップ日誌に記入し、受入先担当者に提出。 | | | |
| 5 | 研修後、インターンシップ報告書を作成。 | 報告書（powerpoint）を担当教員に提出。後期オリエンテーションの学科別活動で発表。 | | | |
| 6 | | | | | |
| 7 | | | | | |
| 8 | | | | | |
| 評価方法・成績評価基準 | | 履修上の注意 | | | |
| 出席率、インターンシップ日誌の内容（業務遂行レベル）、インターンシップ報告書の内容、報告会での発表、受入先担当者による成績評価等、総合的に評価を行います。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。 | | <ul style="list-style-type: none"> ■事前に必ず傷害保険およびインターンシップ活動賠償責任保険に加入すること。 ■研修期間：実働15日間以上を確保すること ■研修中、毎日日誌を作成し、受入先担当者に提出、確認印をもらうこと。インターンシップ終了後、全日誌を教員に提出 ■事後報告書（powerpoint）の提出 ■受入先では人に接する態度、言葉遣いなどの基本的なマナーや、服装・身だしなみ等に気を配ること。 ■無断欠席や遅刻は厳禁である。 | | | |
| 実務経験教員の経歴 | インターンシップ受入先企業・団体の担当スタッフによる。 | | | | |

②

国際自然環境アウトドア専門学校 シラバス

| 科目名 | インターンシップ実習Ⅰ | 授業形態 | 対面のみ | 授業の方法 | 実習 |
|---|---|--|---------|-------|--------|
| 担当教員 | 小野彰太/受入企業・団体 | | 実務授業の有無 | ○ | |
| 対象学科 | アウトドアプロインストラクター学科 | 対象学年 | 1 | 開講時期 | 通年 |
| 必修・選択 | 必修 | 単位数 | | 時間数 | 80時間以上 |
| 授業概要、目的、授業の進め方 | 「インターンシップ実習」では、自らの専攻、将来のキャリアに関連する就業体験を行います。目的は次の4点です。①学習意欲の向上と学習目的の明確化、②高い職業意識を持った職業人の養成、③専門分野での実務能力の向上、④アウトドア業界における人的ネットワークの構築 | | | | |
| 学習目標 (到達目標) | ①実際のビジネス現場での体験を通じて、自分の適性を確認できる。 ②アウトドア業界における就業体験を通し、業界理解を深め、進路選択に役立てることができる。 ③社会人としての挨拶、マナーの重要性を理解できる | | | | |
| テキスト・教材・参考図書・その他資料 | ■インターンシップ実習の手引き、■学生調書 ■志望動機書 ■その他配布資料 | | | | |
| 回数 | 授業項目、内容 | 学習方法・準備学習・備考 | | | |
| 1 | インターンシップガイダンス、受入先の希望調査 | 希望調査シートに第3希望まで記入し、担当教員に提出。 | | | |
| 2 | 受入先の決定、学生調書、インターンシップ動機書の作成・提出 | 学生調書 (excel)、動機書 (word) をメールで担当教員に提出、教員が校閲後返却。完成後、受入先に提出。 | | | |
| 3 | 受入先への連絡 (挨拶、訪問日時・持ち物等の問合せなど) | 学生自身が受入担当者に電話連絡 | | | |
| 4 | 受入先における研修 (7月下旬から9月中旬の期間で実働10日以上) | 研修期間中、毎日、インターンシップ日誌に記入し、受入先担当者に提出。 | | | |
| 5 | 研修後、インターンシップ報告書を作成。 | 報告書 (powerpoint) を担当教員に提出。後期オリエンテーションの学科別活動で発表。 | | | |
| 6 | | | | | |
| 7 | | | | | |
| 8 | | | | | |
| 評価方法・成績評価基準 | | 履修上の注意 | | | |
| 出席率、インターンシップ日誌の内容 (業務遂行レベル)、インターンシップ報告書の内容、報告会での発表、受入先担当者による成績評価等、総合的に評価を行います。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。 | | <ul style="list-style-type: none"> ■事前に必ず傷害保険およびインターンシップ活動賠償責任保険に加入すること。 ■研修期間：実働15日間以上を確保すること ■研修中、毎日日誌を作成し、受入先担当者に提出、確認印をもらうこと。インターンシップ終了後、全日誌を教員に提出 ■事後報告書 (powerpoint) の提出 ■受入先では人に接する態度、言葉遣いなどの基本的なマナーや、服装・身だしなみ等に気を配ること。 ■無断欠席や遅刻は厳禁である。 | | | |
| 実務経験教員の経歴 | インターンシップ受入先企業・団体の担当スタッフによる。 | | | | |

②

国際自然環境アウトドア専門学校 シラバス

| 科目名 | インターンシップ実習Ⅱ | 授業形態 | 対面のみ | 授業の方法 | 実習 |
|---|---|--|---------|-------|--------|
| 担当教員 | 小野彰太/受入企業・団体 | | 実務授業の有無 | ○ | |
| 対象学科 | アウトドアプロインストラクター学科 | 対象学年 | 2 | 開講時期 | 通年 |
| 必修・選択 | 必修 | 単位数 | | 時間数 | 80時間以上 |
| 授業概要、目的、授業の進め方 | 「インターンシップ実習」では、自らの専攻、将来のキャリアに関連する就業体験を行います。目的は次の4点です。①学習意欲の向上と学習目的の明確化、②高い職業意識を持った職業人の養成、③専門分野での実務能力の向上、④アウトドア業界における人的ネットワークの構築 | | | | |
| 学習目標 (到達目標) | ①実際のビジネス現場での体験を通じて、自分の適性を確認できる。 ②アウトドア業界における就業体験を通し、業界理解を深め、進路選択に役立てることができる。 ③社会人としての挨拶、マナーの重要性を理解できる | | | | |
| テキスト・教材・参考図書・その他資料 | ■インターンシップ実習の手引き、■学生調書 ■志望動機書 ■その他配布資料 | | | | |
| 回数 | 授業項目、内容 | 学習方法・準備学習・備考 | | | |
| 1 | インターンシップガイダンス、受入先の希望調査 | 希望調査シートに第3希望まで記入し、担当教員に提出。 | | | |
| 2 | 受入先の決定、学生調書、インターンシップ動機書の作成・提出 | 学生調書 (excel)、動機書 (word) をメールで担当教員に提出、教員が校閲後返却。完成後、受入先に提出。 | | | |
| 3 | 受入先への連絡 (挨拶、訪問日時・持ち物等の問合せなど) | 学生自身が受入担当者に電話連絡 | | | |
| 4 | 受入先における研修 (7月下旬から9月中旬の期間で実働10日以上) | 研修期間中、毎日、インターンシップ日誌に記入し、受入先担当者に提出。 | | | |
| 5 | 研修後、インターンシップ報告書を作成。 | 報告書 (powerpoint) を担当教員に提出。後期オリエンテーションの学科別活動で発表。 | | | |
| 6 | | | | | |
| 7 | | | | | |
| 8 | | | | | |
| 評価方法・成績評価基準 | | 履修上の注意 | | | |
| 出席率、インターンシップ日誌の内容 (業務遂行レベル)、インターンシップ報告書の内容、報告会での発表、受入先担当者による成績評価等、総合的に評価を行います。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。 | | <ul style="list-style-type: none"> ■事前に必ず傷害保険およびインターンシップ活動賠償責任保険に加入すること。 ■研修期間：実働15日間以上を確保すること ■研修中、毎日日誌を作成し、受入先担当者に提出、確認印をもらうこと。インターンシップ終了後、全日誌を教員に提出 ■事後報告書 (powerpoint) の提出 ■受入先では人に接する態度、言葉遣いなどの基本的なマナーや、服装・身だしなみ等に気を配ること。 ■無断欠席や遅刻は厳禁である。 | | | |
| 実務経験教員の経歴 | インターンシップ受入先企業・団体の担当スタッフによる。 | | | | |

| 科目名 | アウトドアインストラクター概論Ⅱ | 授業形態 | 対面・遠隔併用 | 授業の方法 | 演習 |
|--|---|------|--|-------|-----------|
| 担当教員 | 小野 彰太 | | 実務授業の有無 | ○ | |
| 対象学科 | アウトドアプロインストラクター | 対象学年 | 2 | 開講時期 | 通年（前期・後期） |
| 必修・選択 | 選択 | 単位数 | | 時間数 | 80時間 |
| 授業概要、目的、授業の進め方 | アウトドア環境でのインストラクション。ガイディングは、基本（安全管理、セーフティーク、ゲストのケアなど）となる知識・技術がある一方で、個性（自然の見方、感じ方、そのフィールドの生かし方、表現の仕方）は様々である。また、この個性が今後ガイドとしての軸となることから、本授業ではインストラクション。ガイディングにおける基本（ベーシック）を確認しながらも、様々な現役インストラクター、ガイドの個性に触れることでその実態を認識する。また、自分の個性の獲得の糧とする。 | | | | |
| 学習目標（到達目標） | <ul style="list-style-type: none"> ・指導者としての基本要素（安全管理、コミュニケーション、配慮など）について認識し、理解する。 ・指導者としての個性（自然や土地への知見、考え、表現）について認識し、自らの個性（共感できる部分）を獲得する。 | | | | |
| テキスト・教材・参考図書・その他資料 | パワーポイント資料使用、その他配布資料。 | | | | |
| 回数 | 授業項目、内容 | | 学習方法・準備学習・備考 | | |
| 1 | 授業ガイダンス、アウトドアインストラクターとは、指導者の存在、体験学習について | | 担当：小野 講義、体験学習、グループワーク | | |
| 2 | スクール体験（雪上滑走） | | 担当：小野 体験学習 | | |
| 3 | ツアー体験（残雪の自然散策） | | 担当：小野 体験学習 | | |
| 4 | オンライン授業 「3人のガイドのリアル。私がガイドになった理由」 | | 担当：小野 講師：中野かな（なかの kayak）、工藤克史（テントテントツアーズ）、 田中耕太郎（ANCHAN TOURS） ※敬称略 講義、グループワーク、 | | |
| 5 | 地域の資源を考える。 「なぜノルディックハーフマラソンは人気なのか？」 | | 担当：服部 講義、体験学習、グループワーク | | |
| 6 | スクール体験（外岩クライミング） | | 担当：小野 体験学習 | | |
| 7 | ツアー体験（ラフティング） | | 担当：小野 講師：庚敏久（POWER DRIVE R117） ※敬称略 体験学習 | | |
| 8 | ツアー体験（SUP） | | 担当：小野 講師：河野健児（NOZAWA GREEN FIELD） ※敬称略 体験学習 | | |
| 9 | スクール体験（サーフィン） | | 担当：小野 講師：中村 昭彦（一滴 Paddle & Mountain Guide） ※敬称略 体験学習 | | |
| 10 | スクール体験（トレイルランニング） | | 担当：小野（予定） 講師：石川 弘樹（プロトレイルランナー） ※敬称略 体験学習 | | |
| 11 | ツアー体験（秋の自然ガイド） | | 担当：小野 講師：小林 敬明 ※敬称略 体験学習 | | |
| 12 | インストラクター体験 ノルディック教室山ノ内町 | | 担当：小野、服部 体験学習、グループワーク OES2の実践の場に帯同。オブザーバーとして現場を見て学ぶ。 | | |
| 13 | KOKUTOプログラム体験（OES2年生企画） | | 担当：服部 体験学習、グループワーク OES2の企画したプログラムをモニターとして体験。 | | |
| 14 | インストラクター体験（スキー）※予定 スキー指導の現場と60年近くも続く理由、他 | | 担当：小野（予定） 講師：山之内 弘（予定） ※敬称略 体験学習 | | |
| 15 | まとめ ワークショップ「自分の目指すインストラクター」 | | 担当：小野 | | |
| 16 | ツアー体験（冬の自然ガイド） | | 講師：小林 敬明 ※敬称略 体験学習 | | |
| 評価方法・成績評価基準 | | | 履修上の注意 | | |
| 出席率、授業態度、主体性、及び各種提出物から総合的に評価します。議論への参加姿勢も評価対象となります。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。 | | | 外部連携の多い授業でもあります。貴重な機会ですので、遅刻や欠席の無いように自己管理に努めてください。 また、自身がゲストとなって体験できる機会は貴重です。 将来のガイドとして、ゲストの気持ちを理解することを忘れないようにして下さい。 | | |
| 実務経験教員の経歴 | 小野：野尻湖でのカヤック、SUPガイド。初心者向けのカヤック体験会の企画・運営などの経験多数。自身の所属するJSCA（日本セーフティカヌーイング協会）ベーシック検定員。自然ガイド。 服部：自身の所属するJNFA（日本ノルディックフィットネス協会）ナショナルトレーナー。数多くのインストラクターの排出。自身もKOKUTO iyama homeを通じてアウトドアスポーツの普及に努める。 | | | | |

②

国際自然環境アウトドア専門学校 シラバス

| | | | | | |
|---|---|------|---|-------|------|
| 科目名 | アウトドアライフ企画実践実習 | 授業形態 | 対面のみ | 授業の方法 | 実習 |
| 担当教員 | 服部正秋 | | 実務授業の有無 | ○ | |
| 対象学科 | 野外教育・アウトドアスポーツ学科/アウトドアプロインストラクター | 対象学年 | 3/2 | 開講時期 | 前期 |
| 必修・選択 | 必修 | 単位数 | | 時間数 | 32時間 |
| 授業概要、目的、授業の進め方 | ノルディックハーフマラソン運営を通して、アウトドアスポーツイベント企画運営、マネジメント、地域活性、スポーツツーリズムを学ぶ。 | | | | |
| | ノルディックハーフマラソン大会の企画、運営準備 | | | | |
| テキスト・教材・参考図書・その他資料 | | | | | |
| 回数 | 授業項目、内容 | | 学習方法・準備学習・備考 | | |
| 1 | ・コース整備・ホームページ管理・参加者状況確認整理・ 発送作業・協賛各社打ち合わせ・会場レイアウト・地域との打ち合わせ、挨拶・報道関係以来・参加賞・商品整理・ 備品確認・各関係各所申請、打ち合わせ等 | | ・作業（草刈り等）できるしたく（長靴、軍手、 長そで長ズボン等）・草刈り機・パソコン・筆記用具・着替え等 | | |
| 2 | | | | | |
| 3 | | | | | |
| 4 | | | | | |
| 5 | | | | | |
| 6 | | | | | |
| 7 | | | | | |
| 8 | | | | | |
| 9 | | | | | |
| 10 | | | | | |
| 11 | | | | | |
| 12 | | | | | |
| 13 | | | | | |
| 14 | | | | | |
| 評価方法・成績評価基準 | | | 履修上の注意 | | |
| 出席率と授業態度及び提出書類（レポート）により評価を行う。 出席率80%未満の場合、原則として成績評価は行わない。 学習意欲40%、成果物40%、出席20% 成績評価基準は、優(80点以上)・良(70点以上)・可(60点以上)・不可(59点以下)とする。 | | | 当実習は外部との連携や協力によって大会運営ができています。実習は先方への挨拶や打ち合わせ等も多く行うことから授業時間の範囲以外になる事もあります。 | | |
| 実務経験教員の経歴 | 実務経歴7年 | | | | |

②

国際自然環境アウトドア専門学校 シラバス

| 科目名 | エコツアー実習 | | 授業形態 | 対面のみ | 授業の方法 | 実習 |
|---|--|------|---------|---|-------|----|
| 担当教員 | 田辺慎一 | | 実務授業の有無 | ○ | | |
| 対象学科 | 野外教育・アウトドアスポーツ/ 自然ガイド・環境保全/アウト ドアプロインストラクター | 対象学年 | 3/2 | 開講時期 | 後期 | |
| 必修・選択 | 必修 | 単位数 | | 時間数 | 32時間 | |
| 授業概要、目的、 授業の進め方 | ①エコツーリズムの概念を理解し、里山里海地域での可能性を探る。 ②自然観光と地域づくりの先進地を訪問し、エコツーリズムの取り組み事例を学ぶ。 ③訪問した先進地において体験・評価した地域資源をベースに、既存資源を新たに活用したエコツアーを企画・プレゼンし、企画にかかる一連のプロセスを経験する。 | | | | | |
| 学習目標 (到達目標) | 地域の資源特性を活用した着地型エコツアー商品を企画・造成できるようになる | | | | | |
| テキスト・教材・参考 図書・その他資料 | 資料を適宜配布。関連情報のURL等を随時連絡。 | | | | | |
| 回数 | 授業項目、内容 | | | 学習方法・準備学習・備考 | | |
| 1 | ガイダンス後、実習地（自然観光の先進地）に移動。ツアー企画会議（コンセプトづくり、翌日の打合せ等） | | | 活動主体（チーム or 個人）は、受講生が話し合って決定します。 | | |
| 2 | 現地資源調査、キーパーソンのヒアリング、プレゼン資料.ppt作成。ツアー企画会議（ヒアリング・資源調査まとめ、コンセプトづくり、翌日の打合せ等） | | | 各活動・作業は、学生が主体的に実践します。原則、教員はアドバイザーとして関わります。 | | |
| 3 | 現地資源調査、キーパーソンのヒアリング、プレゼン資料.ppt作成。ツアー企画会議（ヒアリング・資源調査まとめ、コンセプトづくり、翌日の打合せ等） | | | 各活動・作業は、学生が主体的に実践します。原則、教員はアドバイザーとして関わります。 | | |
| 4 | ■午前：プレゼン資料.ppt最終チェック、発表準備 ■午後：企画プレゼン、実習まとめ（企画、活動振り返り等）。終了後、妙高に移動。 | | | 各活動・作業は、学生が主体的に実践します。原則、教員はアドバイザーとして関わります。 | | |
| 5 | | | | | | |
| 6 | | | | | | |
| 評価方法・成績評価基準 | | | | 履修上の注意 | | |
| 発表資料の内容、出席率、授業姿勢、授業内での積極的な発言等、総合的に評価を行います。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。 | | | | 着地型の旅行商品造成のプロセス（現地資源調査、ヒアリング、旅行商品の企画・プレゼン等）を実践します。プレゼンには、現地の観光関係者（宿泊業、観光協会、自治体観光課等）が出席しますので、実際の仕事として実習に臨むようにしてください。 | | |
| 実務経験教員の経歴 | 自然系博物館で森林資源評価・保全と地域活性化に2年間従事。地元温泉組合、自然ガイド団体と連携した着地型エコツアーを企画・コーディネート。 | | | | | |

②

国際自然環境アウトドア専門学校 シラバス

| 科目名 | アウトドアスポーツ実習 (MTB) | 授業形態 | 対面のみ | 授業の方法 | 実習 |
|--|--|------|---|-------|------|
| 担当教員 | 服部正秋/外部講師 | | 実務授業の有無 | ○ | |
| 対象学科 | 野外教育・アウトドアスポーツ / 山岳プロ学科/アウトドア アプロインストラクター | 対象学年 | 3/1 | 開講時期 | 後期 |
| 必修・選択 | 必修 | 単位数 | | 時間数 | 32時間 |
| 授業概要、目的、 授業の進め方 | ①サイクルツーリングに関する基礎知識・技術の習得（ロングツーリング・トレイルライド・輸送・マナー・装備など） ②地形・路面（ダウンヒル、ヒルクライム、コーナー、トレイル）に対応したライディング技術（フォーム、ポジショニング、バランス、ペダリング、ブレーキング、コーナリング等）の向上 ③基本的なバイクメンテナンス技術の習得 ④サイクルスポーツを活用した町づくり・観光の現状について考察する | | | | |
| 学習目標 (到達目標) | MTB体験の指導やツアープログラムの企画・ガイドに必要な専門知識・技術を習得し、アウトドアスポーツの視野を広げる | | | | |
| テキスト・教材・参考 図書・その他資料 | 日誌を配布。 | | | | |
| 回数 | 授業項目、内容 | | 学習方法・準備学習・備考 | | |
| 1 | 実習ガイダンス、使用バイク配車、バイク/ヘルメットチェック・調整、ライディング講習、ホイール着脱・輸送講習、ふれPトレイル走、パンク修理、MTBの種類（講習） | | ライディング技術の学習・実践 バイクメンテナンス方法の学習・実践 | | |
| 2 | ツーリング実践 | | ヒルクライム、トレイルライド、ダウンヒル、公道を利用したロングライドなど、MTBの様々な楽しみ方を実線を通して学ぶ | | |
| 3 | ツーリング実践 | | ヒルクライム、トレイルライド、ダウンヒル、公道を利用したロングライドなど、MTBの様々な楽しみ方を実線を通して学ぶ | | |
| 4 | ツーリング実践 | | ヒルクライム、トレイルライド、ダウンヒル、公道を利用したロングライドなど、MTBの様々な楽しみ方を実線を通して学ぶ | | |
| 評価方法・成績評価基準 | | | 履修上の注意 | | |
| 出席率、授業姿勢、実習中の習熟レベル、日誌等、総合的に評価を行います。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。 | | | | | |
| 実務経験教員の経歴 | 主担当：MTB等サイクルスポーツ歴5年（200km以上のロングツーリング経験豊富、MTBでのトレイルライド経験豊富） | | | | |

| 科目名 | 基礎体力トレーニングⅡ | 授業形態 | 対面のみ | 授業の方法 | | 実技 | |
|--|---|------|---|-------|------|----|--|
| 担当教員 | 服部正秋 | | 実務授業の有無 | ○ | | | |
| 対象学科 | アウトドアプロインストラクター | 対象学年 | 2 | 開講時期 | 通年 | | |
| 必修・選択 | 選択 | 単位数 | | 時間数 | 32時間 | | |
| 授業概要、目的、授業の進め方 | フィールドで活動するために必要な持久力、筋力等の基礎的な体力を身に付けるために、体力・トレーニングに関連する知識を獲得し、トレーニング法の実際を学ぶ。 | | | | | | |
| 学習目標 (到達目標) | 授業でのトレーニングや課題を通して、呼吸循環持久力、筋持久力、筋力、を付ける | | | | | | |
| テキスト・教材・参考図書・その他資料 | 特になし | | | | | | |
| 回数 | 授業項目、内容 | | 学習方法・準備学習・備考 | | | | |
| 1 | オリエンテーション、ランニングコースの確認(ランニング) トンネル8km 5分歩き5分走り(60%) | | (雨天時) ふれあいパーク体育館及びJWSCトレーニングルーム (持ち物) ランニングシューズ、上履き、タオル、着替え、飲み物 | | | | |
| 2 | ウォーク&ラン 自分にあつたペースを探ろう(運動強度60%以下速歩:70%以上ラン) トンネル8km | | (雨天時) ふれあいパーク体育館及びJWSCトレーニングルーム (持ち物) ランニングシューズ、上履き、タオル、着替え、飲み物 | | | | |
| 3 | ランニングふれパコース ウォーク&ラン 姿勢の確認(姿勢作り、ポイント確認) ふれパ60分 | | (雨天時) ふれあいパーク体育館及びJWSCトレーニングルーム (持ち物) ランニングシューズ、上履き、タオル、着替え、飲み物 | | | | |
| 4 | ウォーク&ラン 自分にあつたペースを探ろう(運動強度60%以下:70%以上) NHMコース | | (雨天時) ふれあいパーク体育館及びJWSCトレーニングルーム (持ち物) ランニングシューズ、上履き、タオル、着替え、飲み物 | | | | |
| 5 | ランニングサーキット(筋持久力+全身持久力 1度で2度美味しいトレーニング) | | (雨天時) ふれあいパーク体育館及びJWSCトレーニングルーム (持ち物) ランニングシューズ、上履き、タオル、着替え、飲み物 | | | | |
| 6 | ウォーク&ラン 自分にあつたペースを探ろう(運動強度60%以下:70%以上) NHMコース | | | | | | |
| 7 | 下半身サーキットJP系(下半身に特化した筋力トレーニングをしよう) ふれパ20分×2セット | | (雨天時) ふれあいパーク体育館及びJWSCトレーニングルーム (持ち物) ランニングシューズ、上履き、タオル、着替え、飲み物 | | | | |
| 8 | ジョグ&ラン (運動強度60%以下:70%以上) ふれパ上り100mダッシュ | | (雨天時) ふれあいパーク体育館及びJWSCトレーニングルーム (持ち物) ランニングシューズ、上履き、タオル、着替え、飲み物 | | | | |
| 9 | ラン 自分にあつたペースを探ろう(運動強度70%以下) MURA10kmコース | | (雨天時) ふれあいパーク体育館及びJWSCトレーニングルーム (持ち物) ランニングシューズ、上履き、タオル、着替え、飲み物 | | | | |
| 10 | ラン まだらお毛無山&希望湖 トレイルラン | | (雨天時) ふれあいパーク体育館及びJWSCトレーニングルーム (持ち物) ランニングシューズ、上履き、タオル、着替え、飲み物 | | | | |
| 11 | ラン 信越五岳コース アパ〜学校(約8km) トレイルラン | | (雨天時) ふれあいパーク体育館及びJWSCトレーニングルーム (持ち物) ランニングシューズ、上履き、タオル、着替え、飲み物 | | | | |
| 12 | ラン 信越五岳コース 蔵々〜アパ(約5km) 上りトレイルラン | | (雨天時) ふれあいパーク体育館及びJWSCトレーニングルーム (持ち物) ランニングシューズ、上履き、タオル、着替え、飲み物 | | | | |
| 13 | SAQトレーニング&ラン ふれパ(体育館) | | ふれあいパーク体育館及びJWSCトレーニングルーム (持ち物) ランニングシューズ、上履き、タオル、着替え、飲み物 | | | | |
| 14 | ラン&サーキットトレーニング ふれパ(体育館) | | ふれあいパーク体育館及びJWSCトレーニングルーム (持ち物) ランニングシューズ、上履き、タオル、着替え、飲み物 | | | | |
| 15 | 室内での筋力トレーニング(JWSC) | | ふれあいパーク体育館及びJWSCトレーニングルーム (持ち物) ランニングシューズ、上履き、タオル、着替え、飲み物 | | | | |
| 16 | 室内での筋力トレーニング(JWSC) | | ふれあいパーク体育館及びJWSCトレーニングルーム (持ち物) ランニングシューズ、上履き、タオル、着替え、飲み物 | | | | |
| 評価方法・成績評価基準 | | | 履修上の注意 | | | | |
| 出席率と授業態度により評価を行う。 出席率80%未満の場合、原則として成績評価は行わない。 成績評価基準は、優(80点以上)・良(70点以上)・可(60点以上)・不可(59点以下)とする。 | | | ・雨が降らなければ屋外でのトレーニングを行います。動きやすい服装、シューズで出席してください。また雨天時は室内でのトレーニングを行うため室内シューズが必要になります。ケガ等でできない場合は前日までに申し出るようにお願いします。 | | | | |
| 実務経験教員の経歴 | 各自治体、フィットネスジム、スポーツクラブ等での講義経歴10年、当授業実務経歴7年 | | | | | | |

②

国際自然環境アウトドア専門学校 シラバス

| 科目名 | ヨガⅡ | | 授業形態 | 対面・遠隔併用 | 授業の方法 | 実技 |
|---|---|------|----------------|---------|-------|----|
| 担当教員 | 大田絵里 | | 実務授業の有無 | ○ | | |
| 対象学科 | 野外教育・アウトドアスポーツ/ アウトドアプロインストラクター | 対象学年 | 3/2 | 開講時期 | 通年 | |
| 必修・選択 | 選択 | 単位数 | | 時間数 | 32時間 | |
| 授業概要、目的、 授業の進め方 | 日常生活の中で行いやすいアウトドアスポーツの代表でもあるヨガを学ぶことで、自身の健康への意識を高めるとともに、競技力を高めるための精神力、身体力を養う。また日本のアウトドアスポーツや健康問題への現状をヨガを通して理解していく。 | | | | | |
| 学習目標 (到達目標) | ヨガを通してアウトドアフィットネスの理解と同時に自身の健康維持・増進を図る | | | | | |
| テキスト・教材・参考 図書・その他資料 | | | | | | |
| 回数 | 授業項目、内容 | | 学習方法・準備学習・備考 | | | |
| 1 | ヨガ講義と実践 (ヨガとは、ヨガの歴史など) | | ヨガマット・筆記用具・飲み物 | | | |
| 2 | ヨガ講義と実践 (現代社会におけるニーズなど) | | ヨガマット・筆記用具・飲み物 | | | |
| 3 | ヨガ講義と実践 (現代社会におけるニーズなど) | | ヨガマット・筆記用具・飲み物 | | | |
| 4 | ヨガ実践 | | ヨガマット・筆記用具・飲み物 | | | |
| 5 | ヨガ実践 | | | | | |
| 6 | ヨガ実践 | | ヨガマット・筆記用具・飲み物 | | | |
| 7 | ヨガ実践 | | ヨガマット・筆記用具・飲み物 | | | |
| 8 | ヨガ実践 | | ヨガマット・筆記用具・飲み物 | | | |
| 9 | ヨガ実践 | | ヨガマット・筆記用具・飲み物 | | | |
| 10 | ヨガ実践 | | ヨガマット・筆記用具・飲み物 | | | |
| 11 | ヨガ実践 | | ヨガマット・筆記用具・飲み物 | | | |
| 12 | ヨガ実践 | | ヨガマット・筆記用具・飲み物 | | | |
| 13 | ヨガ実践 | | ヨガマット・筆記用具・飲み物 | | | |
| 14 | ヨガ実践 | | ヨガマット・筆記用具・飲み物 | | | |
| 15 | ヨガ実践 | | ヨガマット・筆記用具・飲み物 | | | |
| 16 | 振り返り・まとめ | | ヨガマット・筆記用具・飲み物 | | | |
| 評価方法・成績評価基準 | | | 履修上の注意 | | | |
| 出席率と授業態度により評価を行う。 出席率80%未満の場合、原則として成績評価は行わない。 学習意欲40%、成果40%、出席20% 成績評価基準は、優(80点以上)・良(70点以上)・可(60点以上)・不可(59点以下)とする。 | | | 筆記用具、ヨガマット、 | | | |
| 実務経験教員の経歴 | 各自治体、スポーツクラブ等での講義・実務経歴10年以上 | | | | | |

②

国際自然環境アウトドア専門学校 シラバス

| 科目名 | ホームルーム | 授業形態 | 対面・遠隔併用 | 授業の方法 | 講義 |
|--|--|------|--|-------|------|
| 担当教員 | 小野彰太 | | 実務授業の有無 | × | |
| 対象学科 | アウトドアプロインストラクター | 対象学年 | 1 | 開講時期 | 通年 |
| 必修・選択 | 必修 | 単位数 | | 時間数 | 16時間 |
| 授業概要、目的、授業の進め方 | ①実習、学校行事等のオリエンテーションを通し、カリキュラムにおける実習等の体系的な位置づけを理解する。 ②学内共同作業として、マテリアルルームの学校備品チェック、校舎清掃を行ない、公共奉仕のマインドを養う。 ③学科別オリテ、海外研修オリテ、特別授業等を通して、業界や専門性の理解、進路の明確化を促す。 | | | | |
| 学習目標 (到達目標) | 学科・学年間の学生間交流や共有物利用のルール順守、進路面談等を通して、自立した人間として生活できるようになる | | | | |
| テキスト・教材・参考図書・その他資料 | 資料（実習実施要項など）を適宜配布 | | | | |
| 回数 | 授業項目、内容 | | 学習方法・準備学習・備考 | | |
| 1 | 海外研修オリエンテーション（406/407） | | 12月に実施する海外研修のガイダンス、参加希望調査 | | |
| 2 | 学科別HR①（MP→406/407 OES→409 NGC→408） | | 学科別に分かれ、指定の教室で活動 | | |
| 3 | 実習オリエンテーション（5月、6月分） | | 履修する実習別にガイダンスを受講 | | |
| 4 | 学科別HR②（MP→406/407 OES→409 NGC→408） | | 学科別に分かれ、指定の教室で活動 | | |
| 5 | 学科別HR③（MP→406/407 OES→409 NGC→408） | | 学科別に分かれ、指定の教室で活動 | | |
| 6 | 学科別HR④（MP→406/407 OES→409 NGC→408） | | | | |
| 7 | 実習オリエンテーション（7月分） | | 履修する実習別にガイダンスを受講 | | |
| 8 | 学科別HR⑤（MP→406/407 OES→409 NGC→408） | | 学科別に分かれ、指定の教室で活動 | | |
| 9 | 学科別HR⑥（MP→406/407 OES→409 NGC→408） | | 学科別に分かれ、指定の教室で活動 | | |
| 10 | 実習オリエンテーション（11月分） | | 履修する実習別にガイダンスを受講 | | |
| 11 | 学科別HR⑦（MP→406/407 OES→409 NGC→408） | | 学科別に分かれ、指定の教室で活動 | | |
| 12 | 学科別HR⑧（MP→406/407 OES→409 NGC→408） | | 学科別に分かれ、指定の教室で活動 | | |
| 13 | 就職研修オリエンテーション | | 12月に実施する就職研修のガイダンス | | |
| 14 | 学科別HR⑨（MP→406/407 OES→409 NGC→408） | | 学科別に分かれ、指定の教室で活動 | | |
| 15 | 実習オリエンテーション（1月分） | | 履修する実習別にガイダンスを受講 | | |
| 16 | 就職状況報告会 | | 3年生が就職活動状況を発表 | | |
| 評価方法・成績評価基準 | | | 履修上の注意 | | |
| 出席率、授業姿勢等、総合的に評価を行います。 出席率80%未満の場合、原則として成績評価は行わない。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。 | | | 学科別活動：山岳プロ学科（MP）、野外教育・アウトドアスポーツ学科（OES）、自然ガイド・環境保全学科（NGC） | | |
| 実務経験教員の経歴 | 専門学校での副担任歴1年 | | | | |

②

国際自然環境アウトドア専門学校 シラバス

| 科目名 | ホームルーム | 授業形態 | 対面・遠隔併用 | 授業の方法 | 講義 |
|---|--|------|--|-------|------|
| 担当教員 | 小野彰太 | | 実務授業の有無 | × | |
| 対象学科 | アウトドアプロインストラクター | 対象学年 | 2 | 開講時期 | 通年 |
| 必修・選択 | 必修 | 単位数 | | 時間数 | 16時間 |
| 授業概要、目的、授業の進め方 | ①実践行動学の授業を通して、自己理解、他者理解、コミュニケーション力を向上する。 ②実習、学校行事等のオリエンテーションにより、カリキュラムにおける実習等の体系的な位置づけを理解する。 ③学内共同作業として、マテリアルルームの学校備品チェック、校舎清掃を行ない、公共奉仕を養う。 ④学科別活動を通して、業界や専門性の理解、進路の明確化を促す。 | | | | |
| 学習目標 (到達目標) | 学科・学年間の学生間交流や共有物利用のルール順守、進路面談等を通して、自立した人間として生活できるようになる | | | | |
| テキスト・教材・参考図書・その他資料 | 資料（実習実施要項など）を適宜配布 | | | | |
| 回数 | 授業項目、内容 | | 学習方法・準備学習・備考 | | |
| 1 | 海外研修オリエンテーション（406/407） | | 12月に実施する海外研修のガイダンス、参加希望調査 | | |
| 2 | 学科別HR①（MP→406/407 OES→409 NGC→408） | | 学科別に分かれ、指定の教室で活動 | | |
| 3 | 実習オリエンテーション（5月、6月分） | | 履修する実習別にガイダンスを受講 | | |
| 4 | 学科別HR②（MP→406/407 OES→409 NGC→408） | | 学科別に分かれ、指定の教室で活動 | | |
| 5 | 学科別HR③（MP→406/407 OES→409 NGC→408） | | 学科別に分かれ、指定の教室で活動 | | |
| 6 | 学科別HR④（MP→406/407 OES→409 NGC→408） | | | | |
| 7 | 実習オリエンテーション（7月分） | | 履修する実習別にガイダンスを受講 | | |
| 8 | 学科別HR⑤（MP→406/407 OES→409 NGC→408） | | 学科別に分かれ、指定の教室で活動 | | |
| 9 | 学科別HR⑥（MP→406/407 OES→409 NGC→408） | | 学科別に分かれ、指定の教室で活動 | | |
| 10 | 実習オリエンテーション（11月分） | | 履修する実習別にガイダンスを受講 | | |
| 11 | 学科別HR⑦（MP→406/407 OES→409 NGC→408） | | 学科別に分かれ、指定の教室で活動 | | |
| 12 | 学科別HR⑧（MP→406/407 OES→409 NGC→408） | | 学科別に分かれ、指定の教室で活動 | | |
| 13 | 就職研修オリエンテーション | | 12月に実施する就職研修のガイダンス | | |
| 14 | 学科別HR⑨（MP→406/407 OES→409 NGC→408） | | 学科別に分かれ、指定の教室で活動 | | |
| 15 | 実習オリエンテーション（1月分） | | 履修する実習別にガイダンスを受講 | | |
| 16 | 就職状況報告会 | | 3年生が就職活動状況を発表 | | |
| 評価方法・成績評価基準 | | | 履修上の注意 | | |
| 出席率、授業姿勢等、総合的に評価を行います。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。 | | | 学科別活動：山岳プロ学科（MP）、野外教育・アウトドアスポーツ学科（OES）、自然ガイド・環境保全学科（NGC） | | |
| 実務経験教員の経歴 | 国際自然環境アウトドア専門学校での担任歴1年以上。 | | | | |

②

国際自然環境アウトドア専門学校 シラバス

| 科目名 | 特別授業 | 授業形態 | 対面・遠隔併用 | 授業の方法 | 講義 |
|--|--|------|--------------|-------|----|
| 担当教員 | 外部講師 | | 実務授業の有無 | × | |
| 対象学科 | 野外教育・アウトドアリーダー/キャンプビジネス 自然ガイド・環境保全/自然環境保全学科/山岳プロ/アウトドアプロインストラクター | 対象学年 | 1 | 開講時期 | 前期 |
| 必修・選択 | 必修 | 単位数 | | 時間数 | 8 |
| 授業概要、目的、授業の進め方 | ① 外部講師の講演を受講し、業界の仕事内容や専門スキル、人材ニーズを理解するとともに、社会人としての心構えを学ぶ ② インターンシップや就職活動に向けたモチベーションの向上を図る ③ 夏季休暇を有意義に過ごすための意識付けを図る | | | | |
| 学習目標 (到達目標) | 業界が求めるニーズ（人間性、技術、知識）を理解し、授業内容やインターンシップの必要性を再確認する。 | | | | |
| テキスト・教材・参考図書・その他資料 | テキスト（外部講師準備） | | | | |
| 回数 | 授業項目、内容 | | 学習方法・準備学習・備考 | | |
| 1 | 各業界における先駆者や業界を牽引している方からの講演 | | 講演形式、筆記用具、 | | |
| 2 | | | | | |
| 3 | | | | | |
| 4 | | | | | |
| 5 | | | | | |
| 6 | | | | | |
| 7 | | | | | |
| 8 | | | | | |
| 評価方法・成績評価基準 | | | 履修上の注意 | | |
| 出席率と授業態度により評価を行う。 出席率80%未満の場合、原則として成績評価は行わない。 学習意欲40%、成果40%、出席20% 成績評価基準は、優(80点以上)・良(70点以上)・可(60点以上)・不可(59点以下)とする。 | | | | | |
| 実務経験教員の経歴 | 外部講師は各事業にて実務経験あり。講演、講義経験あり。 | | | | |

②

国際自然環境アウトドア専門学校 シラバス

| 科目名 | 特別授業 | 授業形態 | 対面・遠隔併用 | 授業の方法 | 講義 |
|--|--|------|--------------|-------|----|
| 担当教員 | 外部講師 | | 実務授業の有無 | | × |
| 対象学科 | 山岳プロ/野外教育・アウトドアスポーツ/自然ガイド・環境保全/アウトドアプロインストラクター | 対象学年 | 2 | 開講時期 | 前期 |
| 必修・選択 | 必修 | 単位数 | | 時間数 | 8 |
| 授業概要、目的、授業の進め方 | ① 外部講師の講演を受講し、業界の仕事内容や専門スキル、人材ニーズを理解するとともに、社会人としての心構えを学ぶ ② インターンシップや就職活動に向けたモチベーションの向上を図る ③ 夏季休暇を有意義に過ごすための意識付けを図る | | | | |
| 学習目標 (到達目標) | 業界が求めるニーズ（人間性、技術、知識）を理解し、授業内容やインターンシップの必要性を再確認する。 | | | | |
| テキスト・教材・参考図書・その他資料 | テキスト（外部講師準備） | | | | |
| 回数 | 授業項目、内容 | | 学習方法・準備学習・備考 | | |
| 1 | 各業界における先駆者や業界を牽引している方からの講演 | | 講演形式、筆記用具、 | | |
| 2 | | | | | |
| 3 | | | | | |
| 4 | | | | | |
| 5 | | | | | |
| 6 | | | | | |
| 7 | | | | | |
| 8 | | | | | |
| 評価方法・成績評価基準 | | | 履修上の注意 | | |
| 出席率と授業態度により評価を行う。 出席率80%未満の場合、原則として成績評価は行わない。 学習意欲40%、成果40%、出席20% 成績評価基準は、優(80点以上)・良(70点以上)・可(60点以上)・不可(59点以下)とする。 | | | | | |
| 実務経験教員の経歴 | 外部講師は各事業にて実務経験あり。講演、講義経験あり。 | | | | |

②

国際自然環境アウトドア専門学校 シラバス

| 科目名 | 就職準備研修Ⅱ | 授業形態 | 対面のみ | 授業の方法 | 演習 |
|--|--|---|---------|-------|------|
| 担当教員 | 齋藤達也 | | 実務授業の有無 | × | |
| 対象学科 | 野外教育・アウトドアスポーツ/自然ガイド・環境保全/山岳プロ/クライミングインストラクター/アウトドアプロインストラクター | 対象学年 | 2 | 開講時期 | 後期 |
| 必修・選択 | 必修 | 単位数 | | 時間数 | 16時間 |
| 授業概要、目的、授業の進め方 | 就職活動に対しての心構えを持ち、面接試験対策、特に集団面接のための技術を習得する。 | | | | |
| 学習目標 (到達目標) | 就職活動のプロセスを理解し、主体的に就職活動を進めることができる。 | | | | |
| テキスト・教材・参考図書・その他資料 | ■動画で学ぶ就活ナビ(eラーニング教材) ■模擬面接質問内容 ■面接入室資料 ■模擬面接スケジュール表 ■グループ面接名簿 ■面接評定表 ■進路希望調査 ■その他資料(ワークシート)を適宜配布 | | | | |
| 回数 | 授業項目、内容 | 学習方法・準備学習・備考 | | | |
| 1 | 個人面接_模擬面接の実施 *15分程度(フィードバック含む)/人 | ■模擬面接質問内容への返答内容を作成 ■模擬面接のスケジュール、手順に沿って、個人面接の実施 | | | |
| 2 | 集団面接_模擬面接の実施 *10分間/人の面接とフィードバックで50分~1時間程度 | ■模擬面接質問内容への返答内容を作成 ■模擬面接のスケジュール、手順に沿って、集団面接の実施 | | | |
| 3 | | | | | |
| 4 | | | | | |
| 評価方法・成績評価基準 | | 履修上の注意 | | | |
| 出席率、授業姿勢、ワークシートの完成度等、総合的に評価を行います。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。 | | | | | |
| 実務経験教員の経歴 | 専門学校での就職活動指導歴3年以上。 | | | | |

②

国際自然環境アウトドア専門学校 シラバス

| 科目名 | 海外研修 | 授業形態 | 対面・遠隔併用 | 授業の方法 | 実習 |
|--|---|------|--|-------|------|
| 担当教員 | 小野彰太/マイケル・ハリス | | 実務授業の有無 | × | |
| 対象学科 | 野外教育・アウトドアスポーツ/アウトドアプロインストラクター | 対象学年 | 1/2/3 | 開講時期 | 後期 |
| 必修・選択 | 必修 | 単位数 | | 時間数 | 80時間 |
| 授業概要、目的、授業の進め方 | 外国人旅行者への対応能力の向上と、海外における先進的なエコツーリズム・アドベンチャーツーリズム、業界の動きを学ぶため、6日程度の国内での海外研修を実施する。研修先は、ニュージーランド人がオーナーで外国人スタッフが大半を占めるラフティング、キャニオニングガイド会社の「CANYONS」で行う。英語での、オリエンテーション。英語でのガイドングツアー経験。ガイドとのコミュニケーションの機会を設ける。 | | | | |
| 学習目標 (到達目標) | ①英語によるコミュニケーション能力の向上 ②異文化のアウトドア、アウトドアツーリズムの価値観に触れ、視野を広げると共に自分なりの考えを持つ | | | | |
| テキスト・教材・参考図書・その他資料 | 研修先に関する情報を各自読んでおくこと。スタディサプリを活用して英語スキルの反復を実践すること。 | | | | |
| 回数 | 授業項目、内容 | | 学習方法・準備学習・備考 | | |
| 1 | SUMMERシーズン研修 オリエンテーション | | 講義、体験学習、グループワーク | | |
| 2 | SUMMERシーズン研修 英語ガイドングツアー参加 | | 体験学習、グループワーク | | |
| 3 | SUMMERシーズン研修 英語コミュニケーション実践 | | 体験学習、グループワーク | | |
| 4 | WINTERシーズン研修 オリエンテーション | | 講義、体験学習、グループワーク | | |
| 5 | WINTERシーズン研修 英語ガイドングツアー参加 | | 体験学習、グループワーク | | |
| 6 | WINTERシーズン研修 英語コミュニケーション実践 | | 体験学習、グループワーク | | |
| | | | | | |
| 評価方法・成績評価基準 | | | 履修上の注意 | | |
| 出席、生活態度、研修への参加姿勢、研修後のレポートの完成度から総合的に評価します。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。 | | | 実習先は、日本語でも生活が可能な環境ですが、英語でのコミュニケーションも選択ができるようになります。 実習先では、積極的に英会話を実践してみようことをオススメします。また、異文化の人々の自然を見る視点。人に対する関わり方は、自分の世界や日本における常識を疑うことに役立ちます。是非、海外に赴いたつもりで参加することで学習効果の向上が期待できます。 | | |
| 実務経験教員の経歴 | マイケル・ジョン・ハリス：株式会社キャニオンズ代表。ニュージーランド出身。日本に馴染みの薄かったキャニオニング。ラフティングを国内で普及することに貢献。インバウンド向けのアドベンチャーリズムにおいて環境省・観光庁へのアドバイザーも務める。 | | | | |

②

国際自然環境アウトドア専門学校 シラバス

| 科目名 | ビジネスマナー研修 | 授業形態 | 対面のみ | 授業の方法 | 演習 |
|---|---|------|-----------------------|-------|------|
| 担当教員 | 外部講師 | | 実務授業の有無 | ○ | |
| 対象学科 | 野外教育・アウトドア 自然ガイド・環境保全 山岳プロ ガイディングインストラクター アウトドアプロインストラクター | 対象学年 | 3/2 | 開講時期 | 後期 |
| 必修・選択 | 必修 | 単位数 | | 時間数 | 16時間 |
| 授業概要、目的、授業の進め方 | 社会人としての心構えを持ち、基礎的なビジネスマナーを習得する。 | | | | |
| 学習目標 (到達目標) | 社会人としての心構え、ビジネスマナー、税金、納税のしくみ等を学ぶ。 | | | | |
| テキスト・教材・参考図書・その他資料 | ・筆記用具・スーツ・テキスト（講師準備）・名刺入れ | | | | |
| 回数 | 授業項目、内容 | | 学習方法・準備学習・備考 | | |
| 1 | ビジネスマナー研修（基本的ビジネスマナーと実践） | | 外部講師講義 ミワアシスタンス | | |
| 2 | ビジネスマナー研修（給与のしくみについて） | | 学校法人新潟総合学園人材開発部 | | |
| 3 | ビジネスマナー研修（租税教育） | | 外部講師 小菅税理士事務所 | | |
| | | | | | |
| | | | | | |
| | | | | | |
| | | | | | |
| | | | | | |
| | | | | | |
| | | | | | |
| 評価方法・成績評価基準 | | | 履修上の注意 | | |
| 出席率、授業姿勢、ワークシートの完成度等、総合的に評価を行います。 出席率80%未満の場合、原則として成績評価は行わない。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。 | | | ・研修中は全日程スーツ着用で参加すること。 | | |
| 実務経験教員の経歴 | 外部講師は各事業にて実務経験あり。講演、講義5年以上 | | | | |